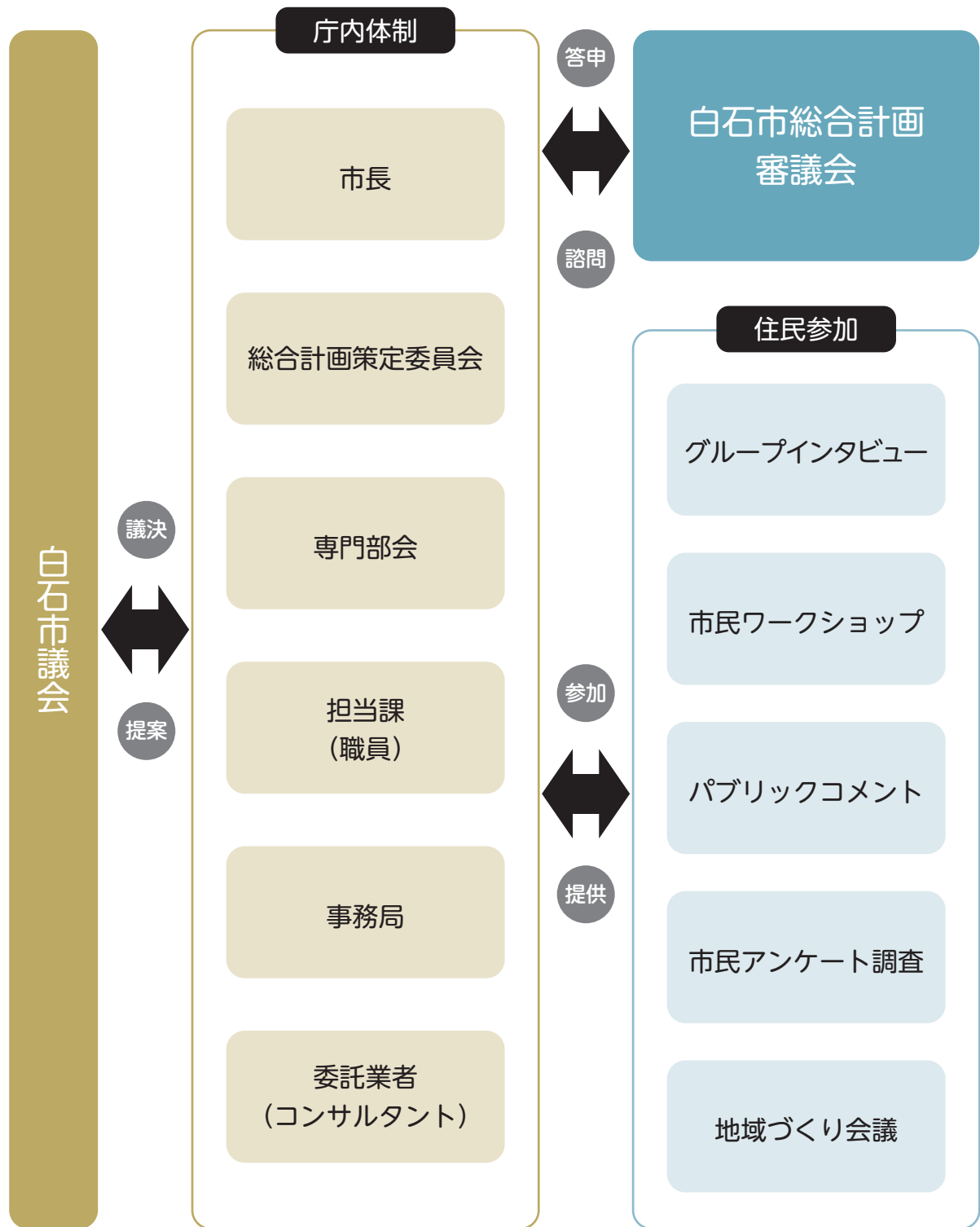


資料編





2

第六次白石市総合計画策定経過

年度	月	基本構想・基本計画	総合計画審議会	地域づくり計画
令和元年度	4月			
	5月	市長インタビュー		
	6月	総合計画策定委員会		
	7月	市民アンケート調査	第1回	
	8月	専門部会		
	9月			
	10月			地域づくり推進のための研修会 (市職員)
	11月	グループインタビュー		地域づくり推進のための研修会 (市職員、まちづくり協議会職員など)
	12月	第1回市民ワークショップ 総合計画策定委員会		第1回地域づくり会議
	1月	第2回市民ワークショップ 専門部会		
	2月		第2回	
	3月			
令和2年度	4月			
	5月	第3回市民ワークショップ		
	6月	総合計画策定委員会		
	7月		第3回	第2回地域づくり会議
	8月			第3回地域づくり会議、 地区住民アンケート調査
	9月			
	10月			まちづくり宣言(案)の地区内回覧
	11月	総合計画策定委員会	第4回	
	12月	パブリックコメント		
	1月	総合計画策定委員会	第5・6回	
	2月	市議会全員協議会		
	3月	議決		

3 白石市総合計画審議会

白石市総合計画審議会委員名簿（役職などは、令和元年7月当時のものです）

氏名	役職等	備考
徳永 幸之	公立大学法人宮城大学教授	会長
紺野 澄雄	白石市自治会連合会会長	副会長
齋藤 昭	白石商工会議所会頭	
佐藤 善一	一般社団法人白石市観光協会会長	
岡崎よしい	白石市民生委員児童委員協議会会長	
平山 乾悦	特定非営利活動法人みやぎ・せんだい子どもの丘理事長	
半田 弘之	白石市立小中学校校長会会長	令和2年4月1日から
狩野 隆		
四竈 英夫	白石市議会議会運営委員会委員長	令和元年8月7日から
佐久間儀郎		
麻生菜穂美	白石市歴史文化アドバイザー	
八嶋 洋子	みやぎ仙南農業協同組合理事	
板橋亜矢子	白石市地域子育て支援センター臨時保育士	
菊地 正昭	白石市副市長	

※委員の任期：令和元年7月12日から令和3年3月31日まで

審議の経過

	開催日	内容
第1回	令和元年7月12日	<ul style="list-style-type: none"> 委嘱状の交付 第六次白石市総合計画策定方針、策定スケジュールについて
第2回	令和2年2月7日	<ul style="list-style-type: none"> 第六次白石市総合計画の策定経過について 第六次白石市総合計画基本構想素案について
第3回	令和2年7月2日	<ul style="list-style-type: none"> 第六次白石市総合計画基本構想素案、基本計画素案について 今後の策定スケジュールについて
第4回	令和2年11月26日 (書面開催)	<ul style="list-style-type: none"> 市長から審議会へ諮問 第六次白石市総合計画（案）について 今後の策定スケジュールについて
第5回	令和3年1月15日	<ul style="list-style-type: none"> 諮問案についての審議 パブリックコメントの実施結果について
第6回	令和3年1月29日	<ul style="list-style-type: none"> 審議会から市長へ答申

白企情第485号
令和2年11月26日

白石市総合計画審議会
会長 徳永 幸之 殿

白石市長 山田 裕一

第六次白石市総合計画の策定について（諮問）

このことについて、白石市総合計画審議会条例（昭和45年条例第13号）第2条第1項の規定に基づき、白石市総合計画審議会会長あて諮問します。

令和3年1月29日

白石市長 山田 裕一 殿

白石市総合計画審議会
会長 徳永 幸之

第六次白石市総合計画の策定について（答申）

令和2年11月26日付け白企情第485号で諮問のありました標記の件につきましては、白石市総合計画審議会条例（昭和45年条例第13号）第2条第1項の規定に基づき、当審議会において慎重に審議した結果、原案のとおり策定することが適切であると認めます。

なお、計画が今後10年間の市の目指す将来像とまちづくりの方向性についての指針として、着実に推進されるよう、下記の事項に配慮されるよう要望します。

記

- 1 基本構想に掲げられた「目指す将来像」の実現に向けて、シビックプライドを醸成し、まちへの誇りと愛着を持って暮らしていくことができるまちづくりの推進に努めること。
- 2 計画の推進体制の強化とともに、定期的な進捗状況の確認と成果の検証を行い、計画に掲げた施策の着実な推進に取り組むこと。

6 住民参加

(1) グループインタビュー

特定の分野を対象を絞ったグループ（団体）に対して、インタビューを実施し、まちづくりの課題、市に取り組んで欲しいことなど、市民アンケート調査では把握しきれない少数意見を把握し、計画策定の参考にするために実施。

期日	グループ（団体など）
令和元年 11 月 7 日	白石市民生委員児童委員協議会役員
	白石市老人クラブ連合会役員
	白石高等学校生徒
令和元年 11 月 14 日	子育て支援センター「るーむ」利用者（子育てサークル）
	白石市地域おこし協力隊
	宮城白石産ササニシキ復活プロジェクト（農業振興団体）
	白石工業高等学校生徒

(2) 市民ワークショップ

公募の市民委員により、地域課題の抽出や目指したいまちの姿の検討、その実現に向けた各主体の取り組みなどについて、自由に議論してもらい、話し合われた内容を計画策定の参考にするために実施。

会議	期日	主な内容
第 1 回	令和元年 12 月 20 日	まちの課題などについて
第 2 回	令和 2 年 1 月 15 日	10 年後に目指したいまちについて
第 3 回	令和 2 年 5 月	目指したいまちの実現のために何をすべきかについて (書面により意見聴取)

(3) パブリックコメント

意見の募集期間 令和 2 年 12 月 1 日（火）～12 月 21 日（月）

意見の応募者数・件数 2 名・3 件

白石市のまちづくりに関するアンケート

集計報告書



白石市のまちづくりに関するアンケート 集計報告書

目次

I	調査の概要	133
II	調査結果	134
1	回答者の属性	134
2	普段の生活について	138
3	現在の満足度・今後の重要度	150
4	白石市への誇りについて	164
5	地域活動・まちづくりへの参加状況	166
6	今後の定住意向	169
7	これからのまちづくりのキーワード	174

I 調査の概要

1. 調査の概要

- 調査対象：令和元年7月1日現在の住民基本台帳から15歳以上の市民から3,000人を層化無作為抽出
- 調査期間：令和元年7月22日～令和元年7月31日（最終締切8月9日）
- 調査方法：郵送配付・回収
- 配布・回収：

配付数	回収数	回収率
3,000票	1,386票	46.2%

2. 報告書のみかた

この調査の分析結果を読む際の留意点は以下のとおりです。

- 「調査結果」の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表現しています。
- 「n」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示しています。
- 百分比による集計では、回答者数（該当質問においては該当者数）を100%として算出し、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記します。また、複数回答の設問では、すべての比率の合計が100%を超えることがあります。
- 設問のなかには前問に答えた人のみが答える「限定設問」があり、表中の「回答者数」が全体より少なくなる場合があります。
- 図表中の「0.0」は四捨五入の結果または回答者が皆無であることをあらわします。
- 母数が100未満の場合の百分率は、統計的誤差が大きい可能性が高いので数値の取扱いには特に注意が必要となります。
- 選択肢の語句が長い場合、本文中及び図表中では省略した表現を用いる場合があります。

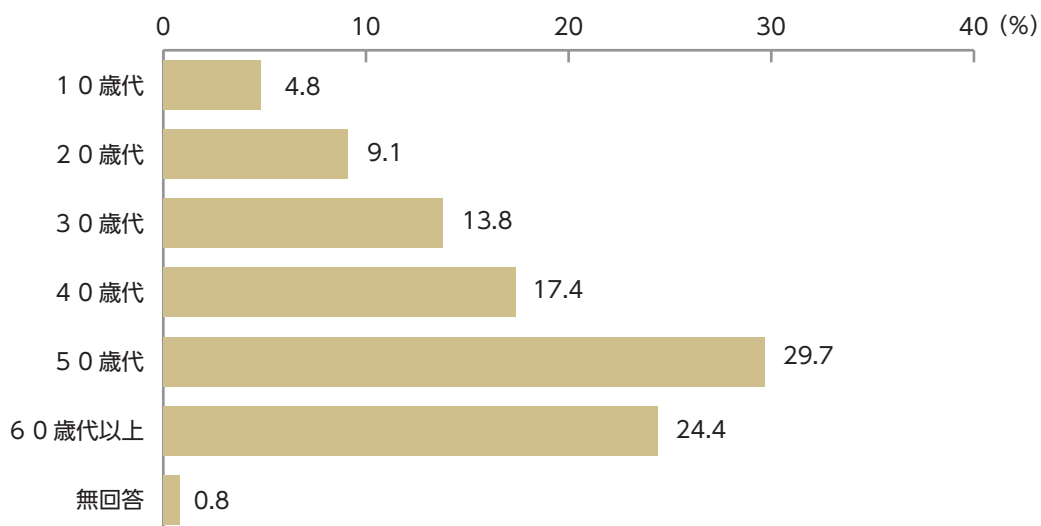
Ⅱ 調査結果

1 回答者の属性

問1 ご回答いただくご本人（あて名の方）について、①～⑧それぞれのあてはまる番号に○をつけてください。

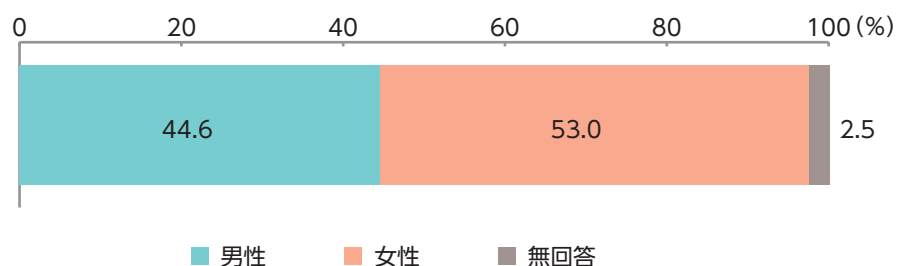
① 年 齢

回答者の年齢は、「50歳代」が29.7%で最も高く、次いで「60歳代以上」（24.4%）、「40歳代」（17.4%）と続いています。



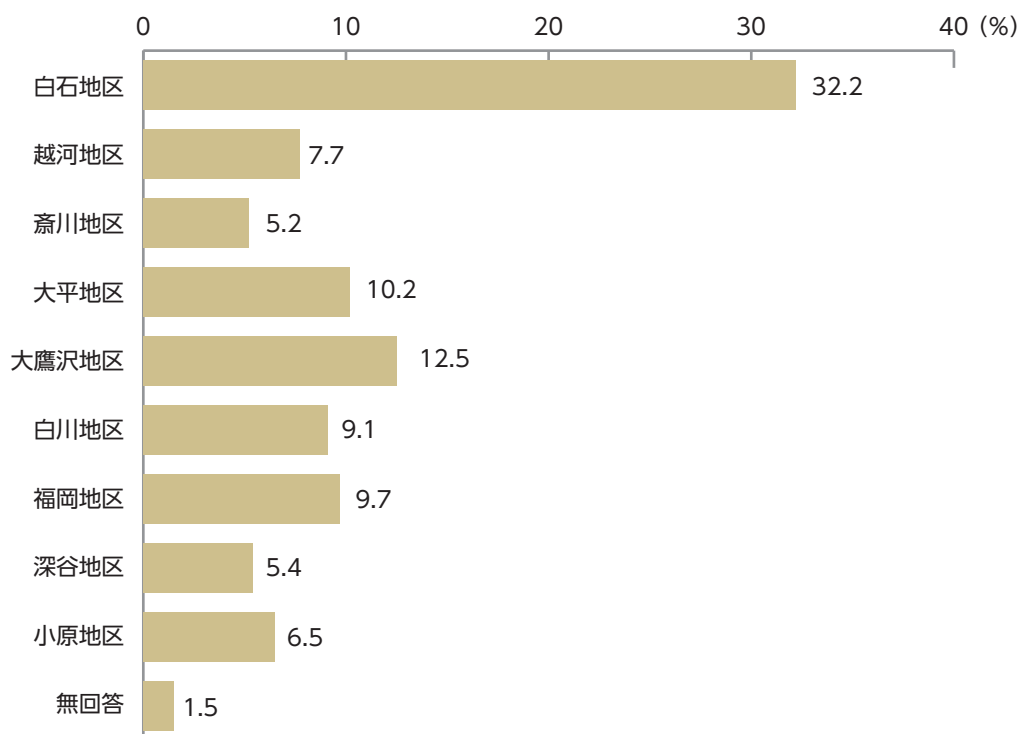
② 性 別

回答者の性別は、「男性」が44.6%、「女性」が53.0%となっています。



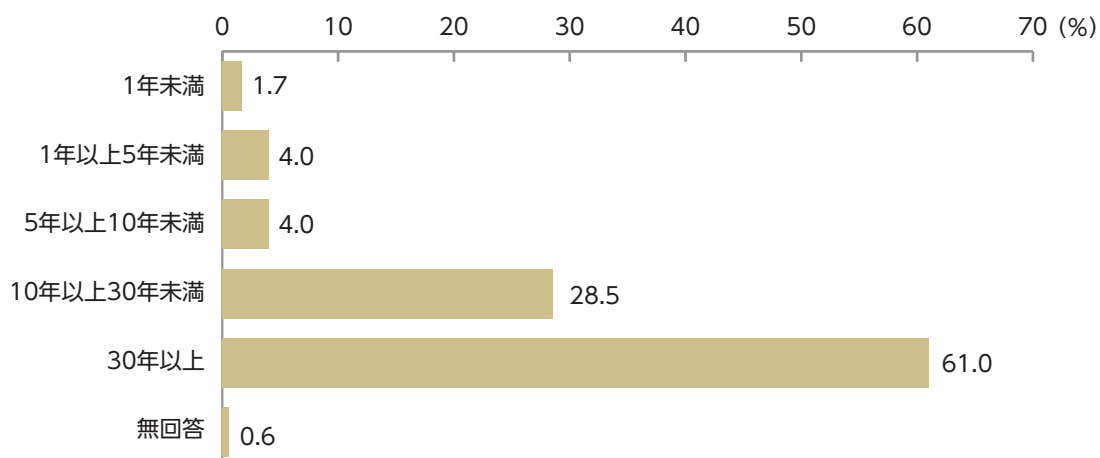
③ 居住地域

回答者の居住地域は、「白石地区」が32.2%で最も高く、全体の約3分の1を占めています。次いで「大鷹沢地区」(12.5%)、「大平地区」(10.2%)と続いています。



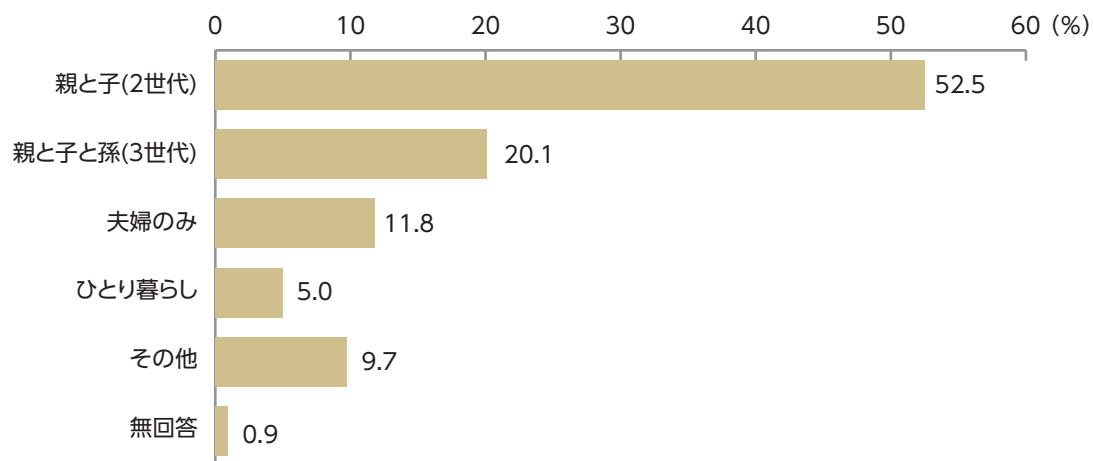
④ 白石市での居住歴

回答者の本市での居住年数について、「30年以上」が61.0%、「10年以上30年未満」が28.5%となっています。



⑤ 家族構成

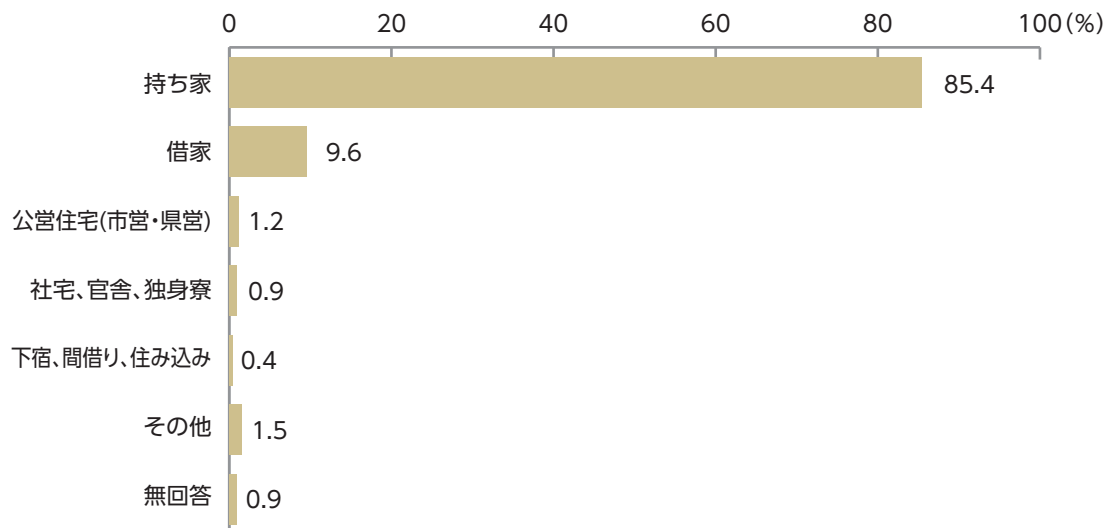
回答者の家族構成は、「親と子（2世代）」が52.5%で最も高く、次いで「親と子と孫（3世代）」（20.1%）、「夫婦のみ」（11.8%）と続いています。



3.2

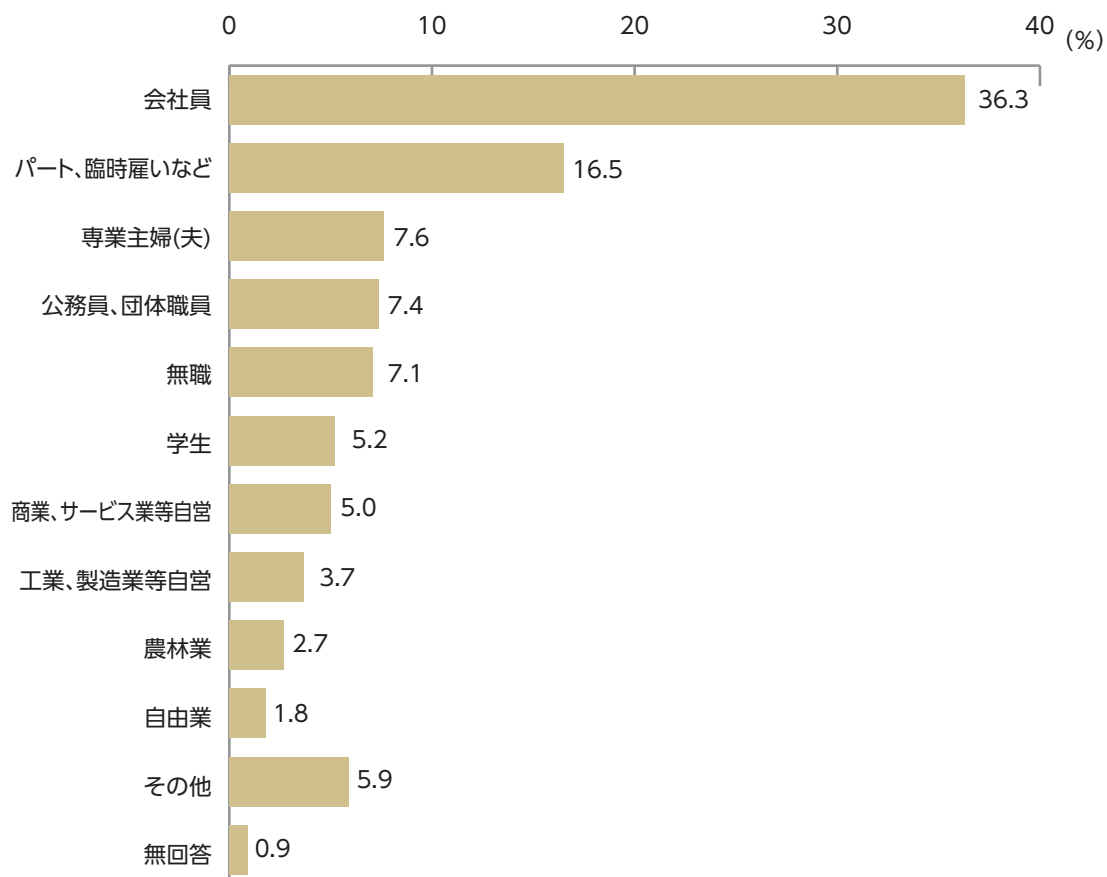
⑥ 住居の種類

回答者の住居の種類は、「持ち家」が85.4%、「借家」が9.6%となっています。



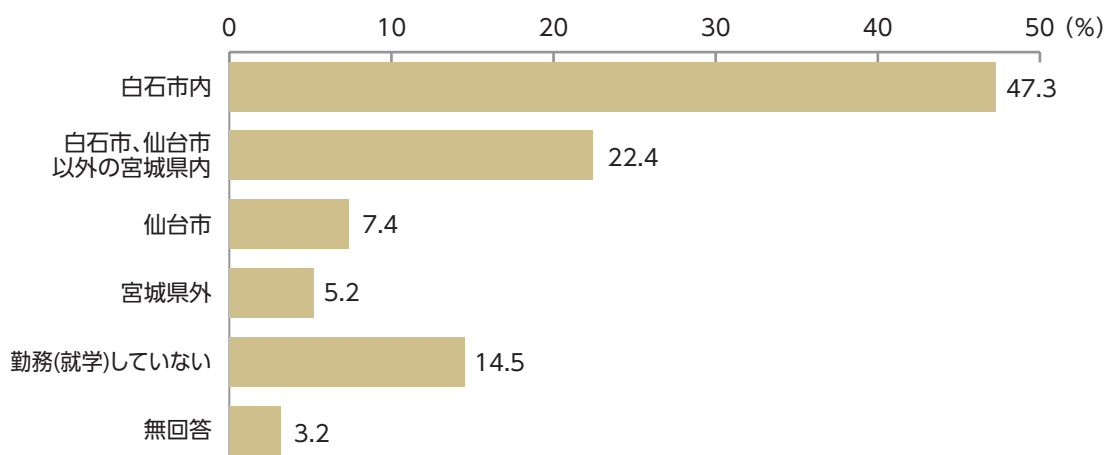
⑦ 職業

回答者の職業について、「会社員」が36.3%で最も高く、次いで「パート・臨時雇いなど」(16.5%)、「専業主婦」(7.6%)と続いています。



⑧ 通勤・通学先

回答者の通勤・通学先は、「白石市内」が47.3%で最も高く、次いで「白石市、仙台市以外の宮城県内」(22.4%)、「勤務(就学)していない」(14.5%)と続いています。



2 普段の生活について

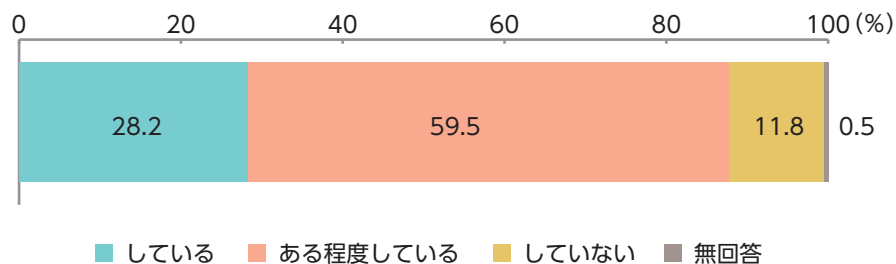
問 2 あなたの普段の生活において、以下のことについてご回答ください。(1)～(12)それぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。)

(1) ご近所同士のつながりを大切にしていますか

ご近所同士のつながりを大切にしているかどうかについて、「している」が28.2%、「ある程度している」が59.5%、「していない」が11.8%となっています。

年齢別にみると、60歳以上では「している」が4割以上と、他の年代に比べて高くなっています。一方、20歳代では「していない」が3割弱と高くなっています。

地区別にみると、小原地区、越河地区等で「している」の割合が高くなっています。



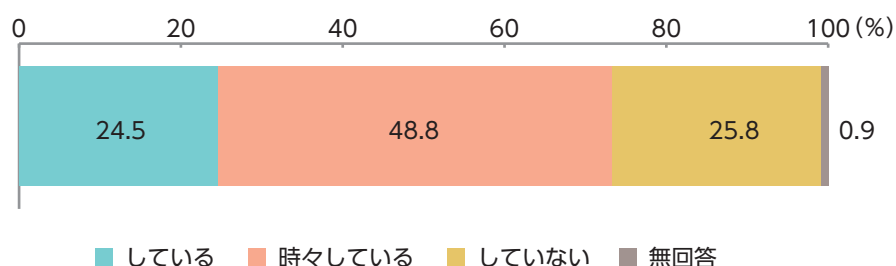
		合計	している	ある程度している	していない	無回答
全体		1,386	28.2	59.5	11.8	0.5
年齢	10歳代	67	20.9	55.2	23.9	0.0
	20歳代	126	14.3	57.9	27.8	0.0
	30歳代	191	17.3	61.8	20.9	0.0
	40歳代	241	22.8	66.4	10.8	0.0
	50歳代	412	28.9	62.4	8.7	0.0
	60歳代以上	338	44.7	52.4	3.0	0.0
性別	男性	618	32.4	55.3	12.3	0.0
	女性	734	24.4	63.9	11.7	0.0
居住地域	白石地区	446	20.4	63.2	16.4	0.0
	越河地区	107	35.5	61.7	2.8	0.0
	斎川地区	72	29.2	59.7	11.1	0.0
	大平地区	142	29.6	59.2	11.3	0.0
	大鷹沢地区	173	34.7	50.9	14.5	0.0
	白川地区	126	31.7	61.1	7.1	0.0
	福岡地区	134	29.9	61.2	9.0	0.0
	深谷地区	75	30.7	56.0	13.3	0.0
	小原地区	90	37.8	55.6	6.7	0.0

(2) 日ごろ、健康増進のための取り組み（運動や食生活の改善など）をしていますか

日頃の健康増進のための取り組みについて、「している」が24.5%、「時々している」が48.8%、「していない」が25.8%となっています。

年齢別にみると、10歳代及び60歳代では「している」の割合が3割以上となっていますが、20歳代から50歳代では2割前後となっています。

地区別にみると、小原地区で「していない」の割合が他の地区に比べて高くなっています。



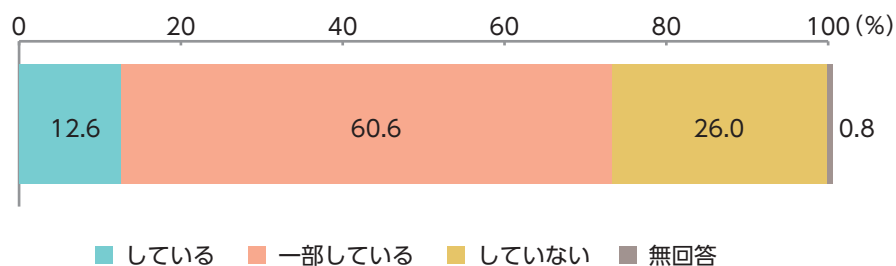
		合計	している	時々している	していない	無回答
全体		1,386	24.5	48.8	25.8	0.9
年齢	10歳代	67	32.8	35.8	31.3	0.0
	20歳代	126	22.2	46.8	31.0	0.0
	30歳代	191	20.4	51.8	27.2	0.5
	40歳代	241	18.7	55.6	25.7	0.0
	50歳代	412	20.4	49.0	30.1	0.5
	60歳代以上	338	35.5	46.2	17.8	0.6
性別	男性	618	22.0	48.5	28.8	0.6
	女性	734	26.6	49.2	24.1	0.1
居住地域	白石地区	446	24.2	48.4	26.9	0.4
	越河地区	107	25.2	53.3	21.5	0.0
	斎川地区	72	26.4	50.0	23.6	0.0
	大平地区	142	27.5	47.9	23.9	0.7
	大鷹沢地区	173	26.6	49.7	23.7	0.0
	白川地区	126	24.6	49.2	25.4	0.8
	福岡地区	134	27.6	44.0	28.4	0.0
	深谷地区	75	17.3	56.0	26.7	0.0
	小原地区	90	16.7	47.8	34.4	1.1

(3) 防災対策（食料・飲料の備蓄、家具の転倒防止など）をしていますか

防災対策について、「している」が12.6%、「一部している」が60.6%、「していない」が26.0%となっています。

年齢別にみると、10歳代、20歳代で「していない」が4割程度と高くなっています。

地区別では、小原地区で「していない」の割合が他の地区に比べて高くなっています。



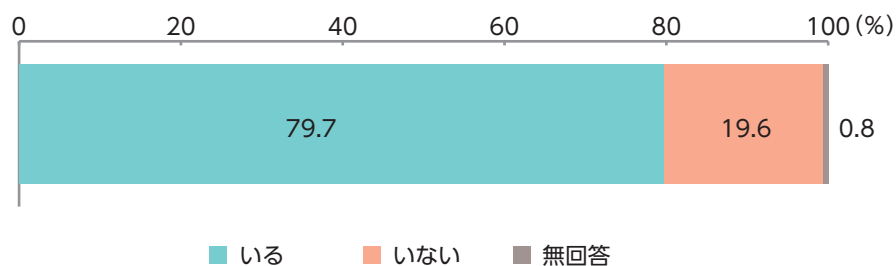
		合計	している	一部している	していない	無回答
全体		1,386	12.6	60.6	26.0	0.8
年齢	10歳代	67	13.4	49.3	37.3	0.0
	20歳代	126	8.7	50.0	41.3	0.0
	30歳代	191	9.4	59.2	31.4	0.0
	40歳代	241	11.2	62.2	26.1	0.4
	50歳代	412	11.4	65.3	22.6	0.7
	60歳代以上	338	18.6	61.8	19.5	0.0
性別	男性	618	12.8	59.5	27.5	0.2
	女性	734	12.4	62.3	24.9	0.4
居住地域	白石地区	446	12.3	61.4	25.8	0.4
	越河地区	107	13.1	60.7	26.2	0.0
	齋川地区	72	6.9	63.9	27.8	1.4
	大平地区	142	16.2	60.6	23.2	0.0
	大鷹沢地区	173	13.3	60.1	26.6	0.0
	白川地区	126	13.5	65.9	19.8	0.8
	福岡地区	134	13.4	60.4	26.1	0.0
	深谷地区	75	14.7	62.7	22.7	0.0
	小原地区	90	8.9	54.4	36.7	0.0

(4) 困った時に気軽に相談できる人はいますか

困ったときに気軽に相談できる人の有無について、「いる」が79.7%、「いない」が19.6%となっています。

性別にみると、男性のほうが女性に比べて「いない」の割合が高くなっています。

地区別にみると、齋川地区で「いない」の割合が他の地区に比べて高くなっています。



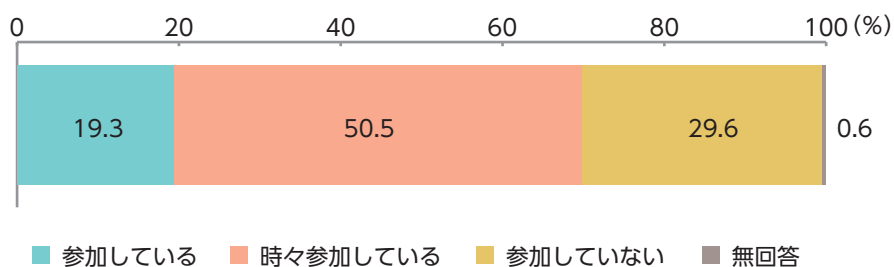
		合計	いる	いない	無回答
全体		1,386	79.7	19.6	0.8
年齢	10歳代	67	89.6	10.4	0.0
	20歳代	126	81.7	17.5	0.8
	30歳代	191	80.6	19.4	0.0
	40歳代	241	75.5	23.7	0.8
	50歳代	412	79.1	20.6	0.2
	60歳代以上	338	82.0	18.0	0.0
性別	男性	618	74.9	24.9	0.2
	女性	734	84.2	15.4	0.4
居住地域	白石地区	446	81.2	18.2	0.7
	越河地区	107	79.4	20.6	0.0
	齋川地区	72	69.4	30.6	0.0
	大平地区	142	81.7	18.3	0.0
	大鷹沢地区	173	80.9	19.1	0.0
	白川地区	126	82.5	17.5	0.0
	福岡地区	134	84.3	15.7	0.0
	深谷地区	75	72.0	26.7	1.3
	小原地区	90	76.7	23.3	0.0

(5) 地域のイベントや活動などに参加していますか

地域のイベントや活動への参加状況について、「参加している」が19.3%、「時々参加している」が50.5%、「参加していない」が29.6%となっています。

年齢別にみると、20歳代では「参加していない」が6割弱と高いほか、30歳代以下の若い世代で「参加していない」の割合が高くなっています。

地区別にみると、大鷹沢地区、小原地区で「参加している」の割合が3割以上と高く、白石地区では「参加していない」が4割弱と高くなっています。

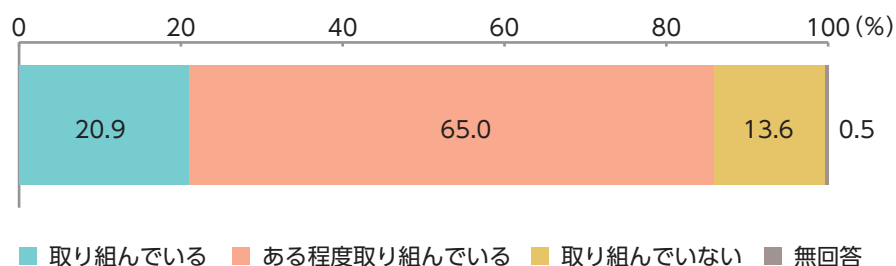


		合計	参加している	時々参加している	参加していない	無回答
全体		1,386	19.3	50.5	29.6	0.6
年齢	10歳代	67	6.0	47.8	46.3	0.0
	20歳代	126	1.6	40.5	57.9	0.0
	30歳代	191	17.3	43.5	39.3	0.0
	40歳代	241	17.8	52.7	29.5	0.0
	50歳代	412	21.1	53.6	25.2	0.0
	60歳代以上	338	29.3	54.4	16.0	0.3
性別	男性	618	23.0	48.2	28.6	0.2
	女性	734	16.1	53.7	30.2	0.0
居住地域	白石地区	446	12.6	49.1	38.3	0.0
	越河地区	107	22.4	59.8	17.8	0.0
	齋川地区	72	20.8	50.0	29.2	0.0
	大平地区	142	15.5	50.7	33.8	0.0
	大鷹沢地区	173	31.8	43.4	24.9	0.0
	白川地区	126	23.8	53.2	22.2	0.8
	福岡地区	134	17.9	52.2	29.9	0.0
	深谷地区	75	20.0	58.7	21.3	0.0
	小原地区	90	30.0	51.1	18.9	0.0

(6) 省エネルギーやリサイクルに取り組んでいますか

省エネルギーやリサイクルの取り組み状況について、「取り組んでいる」が20.9%、「ある程度取り組んでいる」が65.0%、「取り組んでいない」が13.6%となっています。

年齢別にみると、60歳代以上では「取り組んでいる」が3割以上と高く、20歳代では「取り組んでいる」が約1割にとどまり、「取り組んでいない」が2割半ばと他の年代に比べて高くなっています。



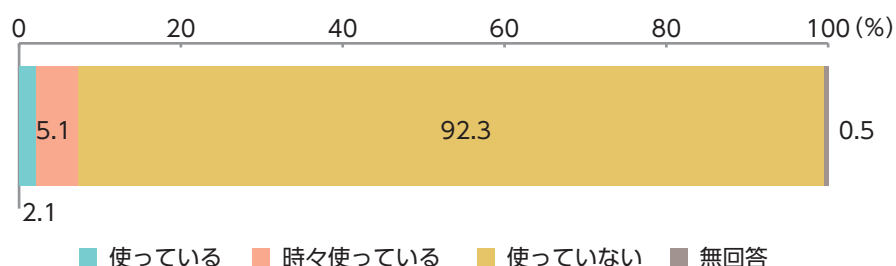
		合計	取り組んでいる	ある程度取り組んでいる	取り組んでいない	無回答
全体		1,386	20.9	65.0	13.6	0.5
年齢	10歳代	67	14.9	62.7	22.4	0.0
	20歳代	126	11.1	62.7	26.2	0.0
	30歳代	191	13.6	70.2	16.2	0.0
	40歳代	241	18.7	66.0	15.4	0.0
	50歳代	412	20.1	69.2	10.7	0.0
	60歳代以上	338	32.8	59.5	7.7	0.0
性別	男性	618	20.6	64.2	15.2	0.0
	女性	734	21.4	66.3	12.3	0.0
居住地域	白石地区	446	20.9	64.8	14.3	0.0
	越河地区	107	23.4	61.7	15.0	0.0
	斎川地区	72	15.3	65.3	19.4	0.0
	大平地区	142	21.8	68.3	9.9	0.0
	大鷹沢地区	173	21.4	65.9	12.7	0.0
	白川地区	126	28.6	62.7	8.7	0.0
	福岡地区	134	20.1	66.4	13.4	0.0
	深谷地区	75	22.7	64.0	13.3	0.0
	小原地区	90	12.2	71.1	16.7	0.0

(7) 日常生活のなかで市民バス（きゃっするくん）を使っていますか

日常生活での市民バス（きゃっするくん）の使用について、「使っている」が2.1%、「時々使っている」が5.1%、「使っていない」が92.3%となっています。

年齢別にみると、10歳代で「使っている」と「時々使っている」を合わせた『使っている』が2割半ばで、他の年代と比べて高い割合となっています。

地区別では、小原地区で『使っている』が2割となっています。

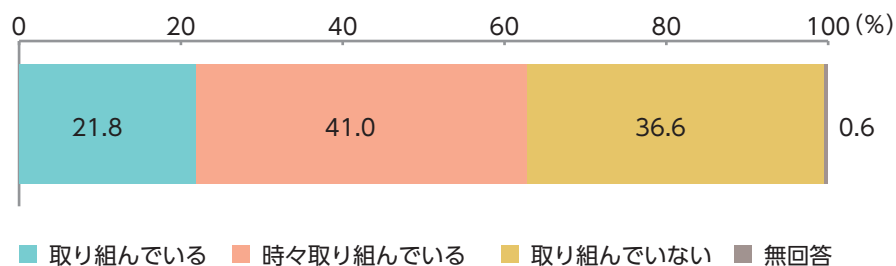


		合計	使っている	時々使っている	使っていない	無回答
全体		1,386	2.1	5.1	92.3	0.5
年齢	10歳代	67	7.5	16.4	76.1	0.0
	20歳代	126	1.6	7.9	90.5	0.0
	30歳代	191	2.1	5.2	92.7	0.0
	40歳代	241	2.5	3.3	94.2	0.0
	50歳代	412	1.9	4.6	93.4	0.0
	60歳代以上	338	1.2	3.8	95.0	0.0
性別	男性	618	2.4	5.2	92.4	0.0
	女性	734	1.6	5.2	93.2	0.0
居住地域	白石地区	446	1.8	3.8	94.4	0.0
	越河地区	107	5.6	6.5	87.9	0.0
	斎川地区	72	2.8	9.7	87.5	0.0
	大平地区	142	1.4	4.2	94.4	0.0
	大鷹沢地区	173	1.7	5.8	92.5	0.0
	白川地区	126	0.8	2.4	96.8	0.0
	福岡地区	134	0.0	3.7	96.3	0.0
	深谷地区	75	4.0	2.7	93.3	0.0
	小原地区	90	4.4	15.6	80.0	0.0

(8) 趣味や教養を身に付けることに取り組んでいますか

趣味や教養を身に付けることについて、「取り組んでいる」が21.8%、「時々取り組んでいる」が41.0%、「取り組んでいない」が36.6%となっています。

年齢別にみると、10歳代で「取り組んでいる」が5割以上と高くなっています。

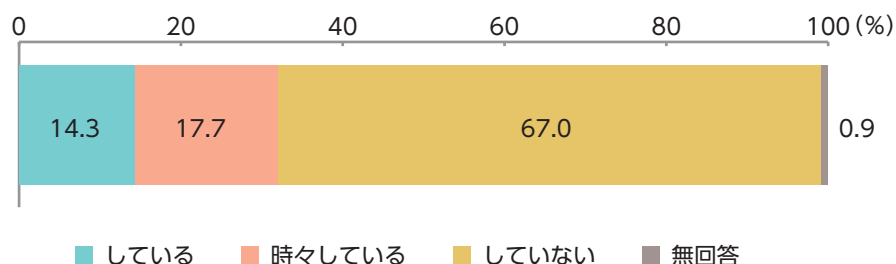


		合計	取り組んでいる	時々取り組んでいる	取り組んでいない	無回答
全体		1,386	21.8	41.0	36.6	0.6
年齢	10歳代	67	53.7	37.3	9.0	0.0
	20歳代	126	26.2	46.8	27.0	0.0
	30歳代	191	25.1	40.8	34.0	0.0
	40歳代	241	16.6	40.7	42.7	0.0
	50歳代	412	17.2	41.7	41.0	0.0
	60歳代以上	338	21.6	40.2	37.6	0.6
性別	男性	618	24.3	43.5	32.0	0.2
	女性	734	19.6	39.8	40.5	0.1
居住地	白石地区	446	24.2	40.4	35.4	0.0
	越河地区	107	20.6	42.1	37.4	0.0
	斎川地区	72	12.5	48.6	38.9	0.0
	大平地区	142	24.6	38.0	37.3	0.0
	大鷹沢地区	173	27.2	37.6	34.7	0.6
	白川地区	126	15.1	46.8	38.1	0.0
	福岡地区	134	23.9	40.3	35.8	0.0
	深谷地区	75	18.7	46.7	33.3	1.3
	小原地区	90	16.7	41.1	42.2	0.0

(9) 日常的に（週1回以上）スポーツ活動をしていますか

日常的なスポーツ活動について、「している」が14.3%、「時々している」が17.7%、「していない」が67.0%となっています。

年齢別にみると、10歳代では「している」が4割半ばと高くなっています。



		合計	している	時々している	していない	無回答
全体		1,386	14.3	17.7	67.0	0.9
年齢	10歳代	67	46.3	17.9	35.8	0.0
	20歳代	126	11.9	27.8	60.3	0.0
	30歳代	191	14.7	19.9	64.9	0.5
	40歳代	241	10.4	17.8	71.8	0.0
	50歳代	412	12.9	15.3	71.6	0.2
	60歳代以上	338	13.6	16.3	68.9	1.2
性別	男性	618	14.6	23.1	61.8	0.5
	女性	734	14.0	13.6	71.9	0.4
居住地域	白石地区	446	14.3	17.0	68.2	0.4
	越河地区	107	15.0	19.6	65.4	0.0
	齋川地区	72	11.1	18.1	69.4	1.4
	大平地区	142	20.4	16.2	63.4	0.0
	大鷹沢地区	173	16.8	22.0	60.7	0.6
	白川地区	126	15.1	15.9	68.3	0.8
	福岡地区	134	13.4	16.4	70.1	0.0
	深谷地区	75	12.0	20.0	66.7	1.3
	小原地区	90	6.7	18.9	74.4	0.0

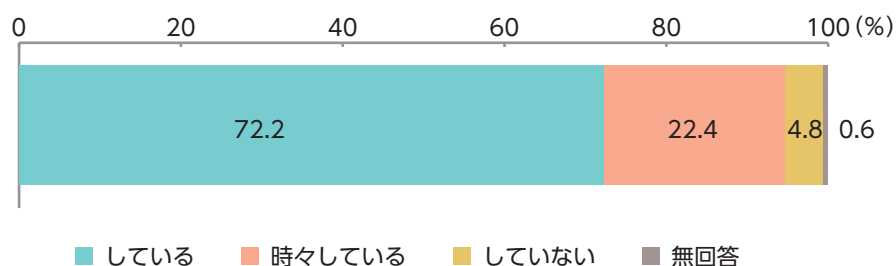
(10) 日用品など、日ごろ市内で買い物をしていますか

市内での日用品などの買い物について、「している」が72.2%、「時々している」が22.4%、「していない」が4.8%となっています。

年齢別にみると、年代があがるにつれ「している」の割合が高く、60歳代では約8割が「している」と回答していますが、10歳代では5割半ばとなっています。

性別にみると、女性のほうが男性に比べて「している」の割合が高くなっています。

地区別にみると、白川地区では「している」が5割半ばと他の地区に比べて低くなっています。

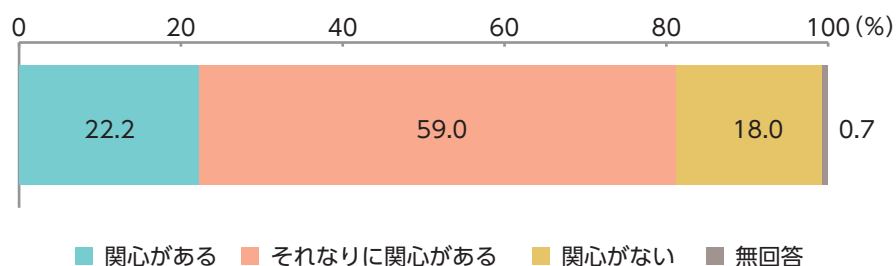


		合計	している	時々している	していない	無回答
全体		1,386	72.2	22.4	4.8	0.6
年齢	10歳代	67	56.7	32.8	10.4	0.0
	20歳代	126	59.5	27.0	13.5	0.0
	30歳代	191	70.7	23.6	5.8	0.0
	40歳代	241	73.9	21.6	4.6	0.0
	50歳代	412	74.0	23.3	2.7	0.0
	60歳代以上	338	79.0	18.3	2.4	0.3
性別	男性	618	62.8	30.7	6.3	0.2
	女性	734	80.5	16.1	3.4	0.0
居住地域	白石地区	446	77.8	18.8	3.4	0.0
	越河地区	107	66.4	27.1	6.5	0.0
	斎川地区	72	75.0	22.2	2.8	0.0
	大平地区	142	78.9	17.6	3.5	0.0
	大鷹沢地区	173	72.3	23.7	3.5	0.6
	白川地区	126	54.0	31.0	15.1	0.0
	福岡地区	134	70.1	26.1	3.7	0.0
	深谷地区	75	69.3	24.0	6.7	0.0
	小原地区	90	73.3	25.6	1.1	0.0

(11) 市のまちづくりの取り組みや財政状況に関心がありますか

市のまちづくりの取り組みや財政状況への関心について、「関心がある」が22.2%、「それなりに関心がある」が59.0%、「関心がない」が18.0%となっています。

年齢別にみると、20歳代以下では「関心がない」が約4割と高くなっています。

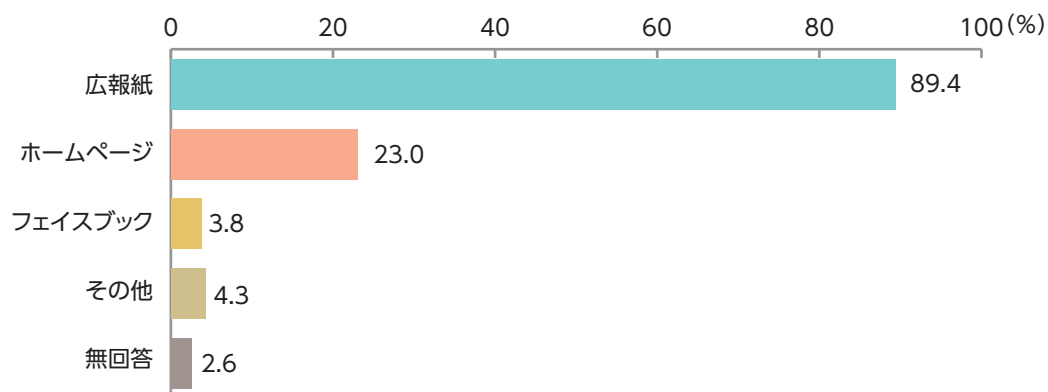


		合計	関心がある	それなりに関心がある	関心がない	無回答
全体		1,386	22.2	59.0	18.0	0.7
年齢	10歳代	67	14.9	44.8	40.3	0.0
	20歳代	126	13.5	49.2	37.3	0.0
	30歳代	191	20.9	57.1	22.0	0.0
	40歳代	241	24.1	57.7	18.3	0.0
	50歳代	412	20.9	64.3	14.8	0.0
	60歳代以上	338	28.4	62.7	8.0	0.9
性別	男性	618	26.2	55.2	18.6	0.0
	女性	734	18.3	63.1	18.3	0.4
居住地	白石地区	446	23.8	56.5	19.7	0.0
	越河地区	107	26.2	56.1	17.8	0.0
	斎川地区	72	25.0	63.9	11.1	0.0
	大平地区	142	23.9	57.7	17.6	0.7
	大鷹沢地区	173	22.0	55.5	22.0	0.6
	白川地区	126	15.9	68.3	15.9	0.0
	福岡地区	134	17.9	68.7	12.7	0.7
	深谷地区	75	29.3	53.3	17.3	0.0
	小原地区	90	16.7	64.4	18.9	0.0

(12) 市役所からの情報を何で入手していますか (あてはまる番号すべてに○をつけてください)

市役所からの情報の入手元について、「広報紙」が89.4%で最も高く、「ホームページ」が23.0%、「フェイスブック」が3.8%となっています。

年齢別にみると、30歳代で「ホームページ」が4割弱と高くなっています。



		合計	広報紙	ホームペー ジ	フェイス ブック	その他	無回答
全体		1,386	89.4	23.0	3.8	4.3	2.6
年齢	10歳代	67	77.6	19.4	0.0	7.5	9.0
	20歳代	126	73.8	29.4	6.3	5.6	5.6
	30歳代	191	79.6	38.2	6.3	9.4	2.6
	40歳代	241	91.7	23.7	5.4	1.7	1.7
	50歳代	412	94.9	21.6	2.9	3.9	0.7
	60歳代以上	338	96.4	14.8	2.4	3.0	1.2
性別	男性	618	87.4	23.9	4.0	5.2	2.9
	女性	734	91.7	23.0	3.7	3.5	1.4
居住地域	白石地区	446	89.2	25.8	3.6	5.4	1.3
	越河地区	107	91.6	22.4	0.9	2.8	1.9
	斎川地区	72	87.5	29.2	5.6	4.2	1.4
	大平地区	142	90.1	24.6	5.6	4.2	2.8
	大鷹沢地区	173	89.6	24.9	4.0	4.6	1.7
	白川地区	126	90.5	15.1	3.2	2.4	2.4
	福岡地区	134	88.1	21.6	3.7	5.2	3.0
	深谷地区	75	90.7	21.3	8.0	2.7	5.3
	小原地区	90	94.4	17.8	2.2	3.3	1.1

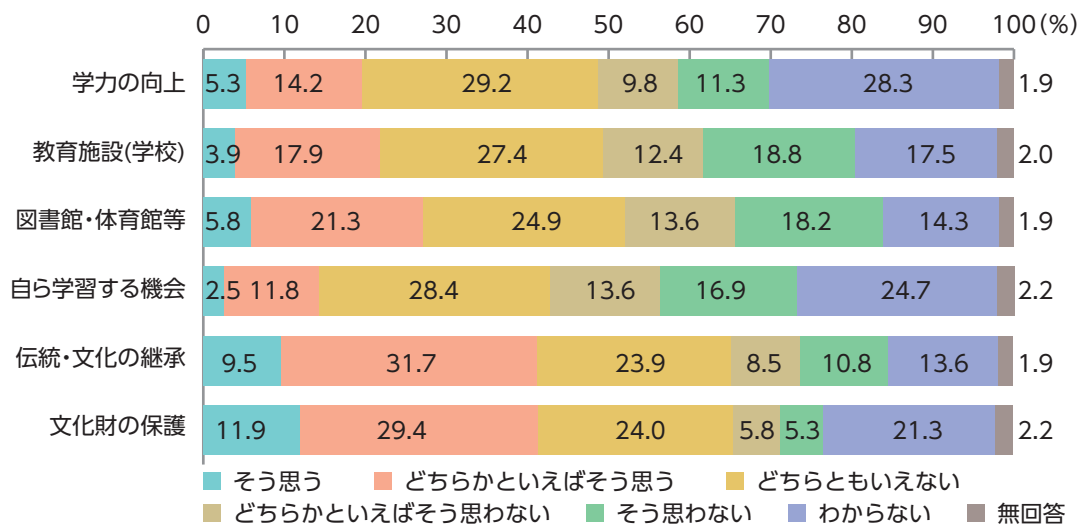
3 現在の満足度・今後の重要度

問3 あなたは、次の表に示した項目について、白石市の状況をどのように感じていますか。また、今後、取り組むことがどのくらい重要だとお考えですか。(1) から (31) それぞれの項目の「現在の満足度」と「今後の重要度」について、あてはまる番号1つに○をつけてください。

① 満足度

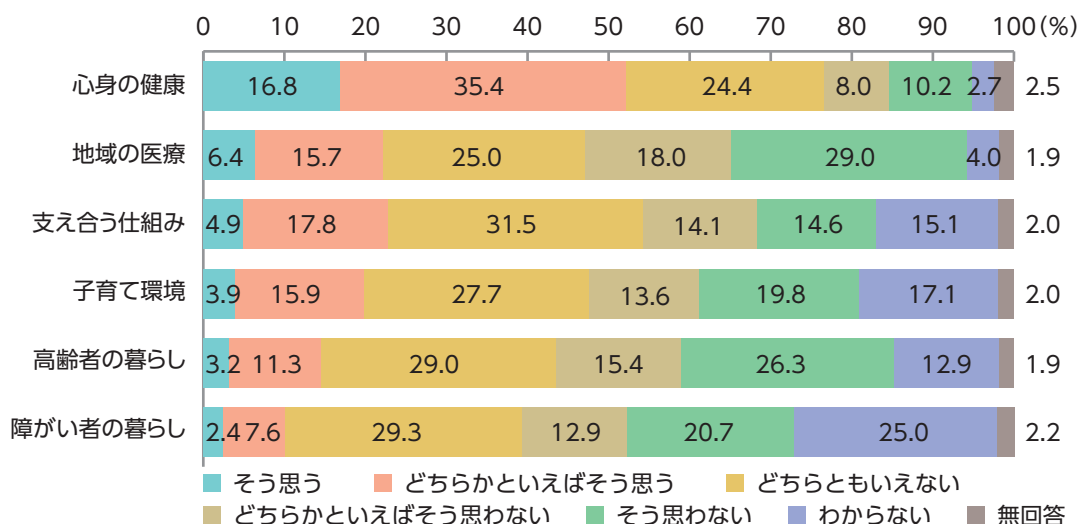
[教育・伝統文化]

教育・伝統文化分野の満足度において、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思う』の割合が最も高い項目は「文化財が保護されている」、「伝統・文化が受け継がれている」(各41.3%)、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『思わない』の割合が高い項目は「図書館・体育館等が充実している」(31.7%)となっています。



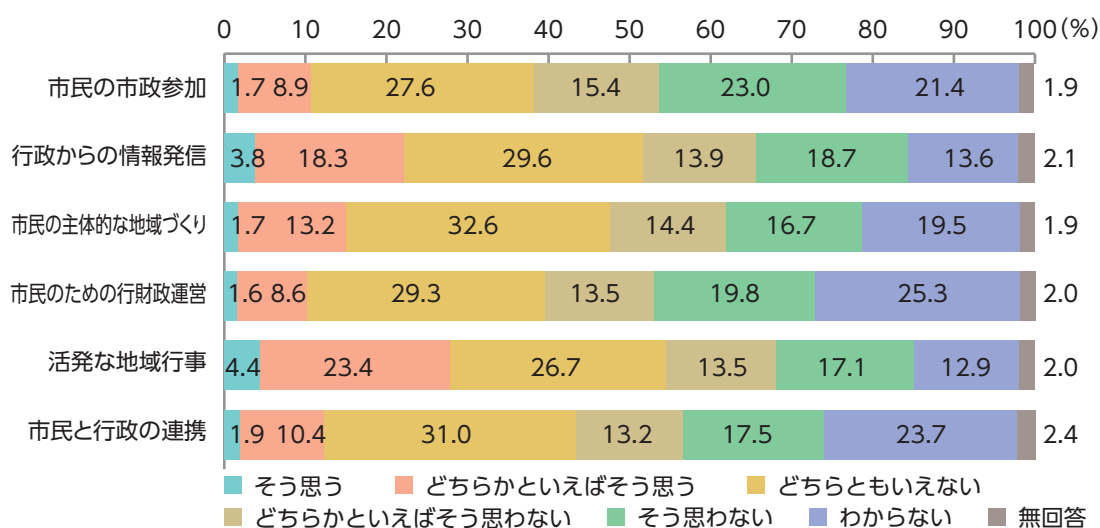
[保健・医療・福祉・子育て]

保健・医療・福祉・子育て分野の満足度において、『思う』の割合が高い項目は「心身ともに健康で暮らしている」(52.2%)、『思わない』の割合が最も高い項目は「地域の医療に安心感が持てる」(47.0%) となっています。



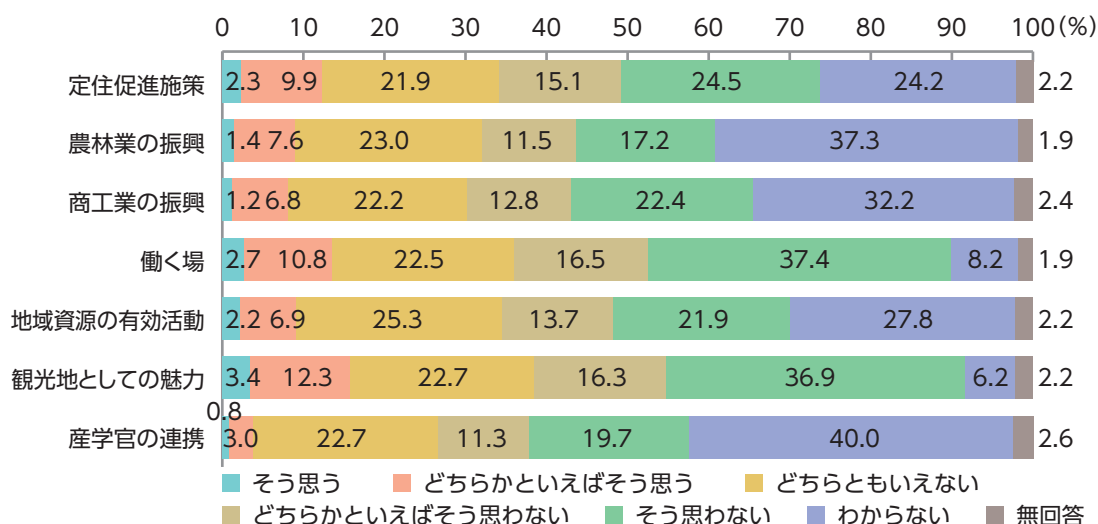
[市民活動・地域コミュニティ]

市民活動・地域コミュニティ分野の満足度において、『思う』の割合が高い項目は「地域の行事が活発に行われている」(27.8%)、『思わない』の割合が最も高い項目は「市民が積極的に市政に参加している」(38.5%) となっています。



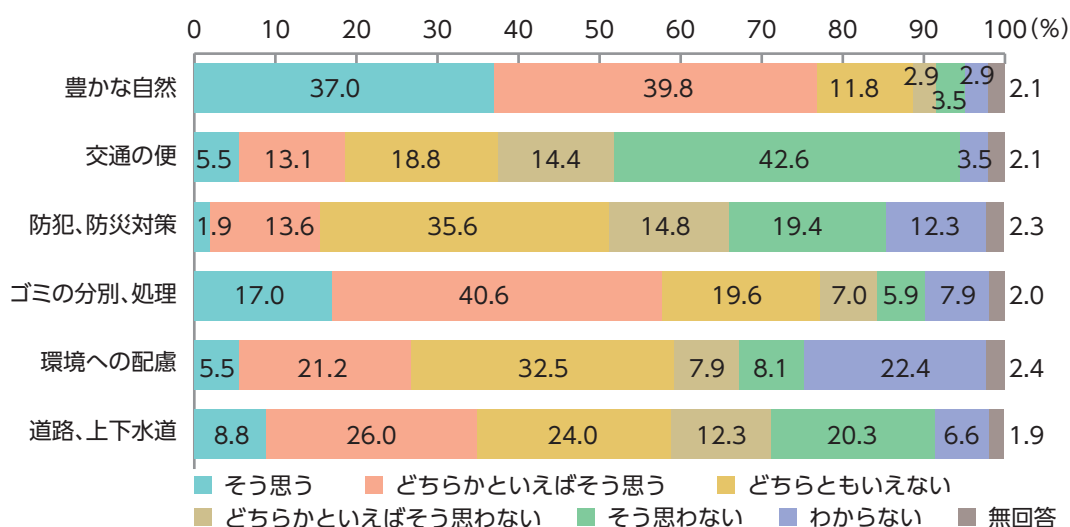
[産業・観光・雇用]

産業・観光・雇用分野の満足度において、『思う』の割合が高い項目は「観光地としての魅力を感じる」(15.7%)、『思わない』の割合が最も高い項目は「働く場がある」(53.9%)となっています。



[自然環境・都市基盤・生活環境]

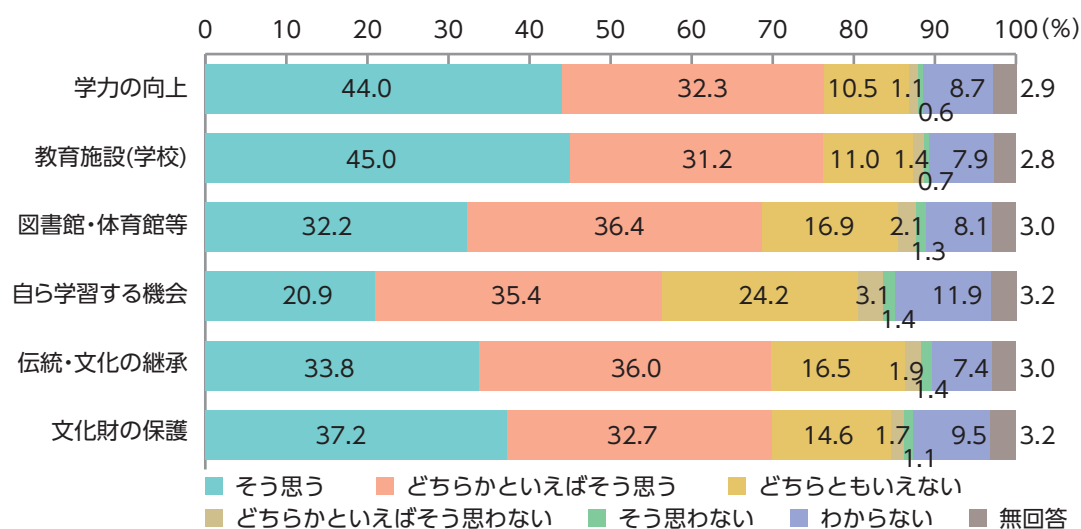
自然環境・都市基盤・生活環境分野の満足度において、『思う』の割合が高い項目は「豊かな自然が残っている」(76.8%)、『思わない』の割合が最も高い項目は「交通の便がよく移動しやすい」(57.0%)となっています。



② 重要度

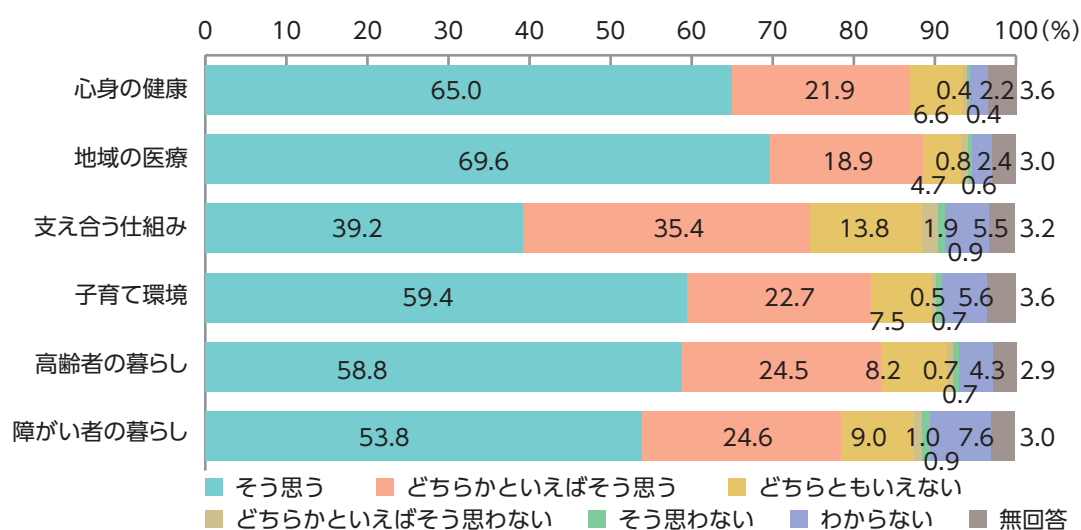
[教育・伝統文化]

教育・伝統文化分野の重要度において、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思う』の割合が高い項目は「学力の向上に取り組んでいる」(76.3%)、「教育施設(学校)が充実している」(76.2%) などとなっています。



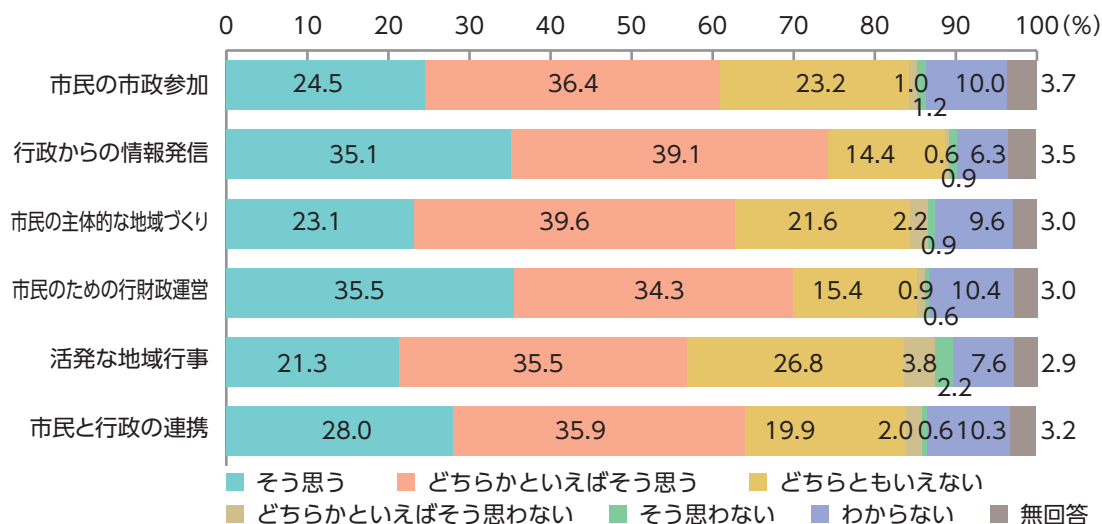
[保健・医療・福祉・子育て]

保健・医療・福祉・子育て分野の重要度において、『思う』の割合が高い項目は「地域の医療に安心感が持てる」(88.5%)、「心身ともに健康で暮らしている」(86.9%) などとなっています。



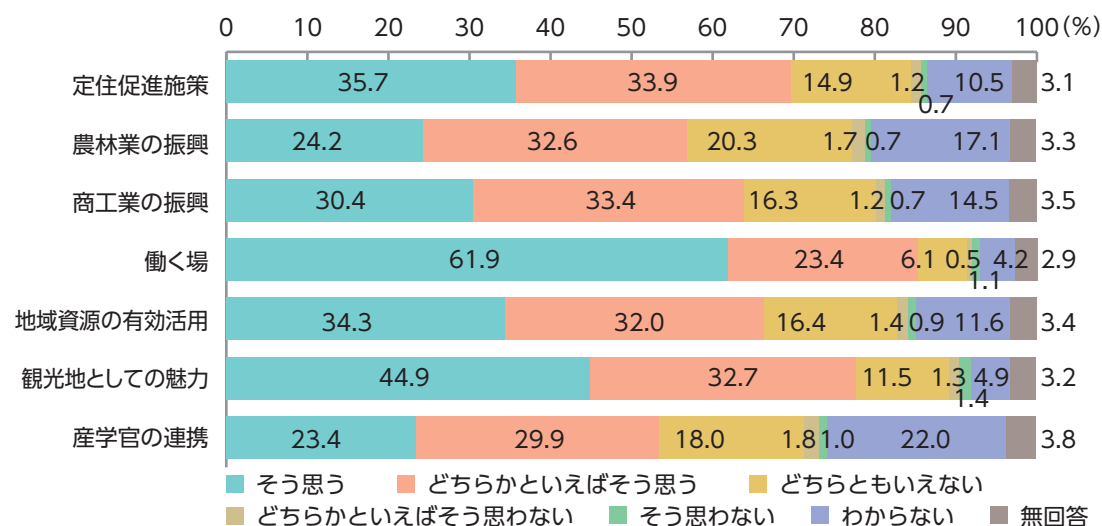
[市民活動・地域コミュニティ]

市民活動・地域コミュニティ分野の重要度において、『思う』の割合が高い項目は「行政からの情報がわかりやすく発信されている」(74.2%)、「市民のための行財政運営が行われている」(69.8%) などとなっています。



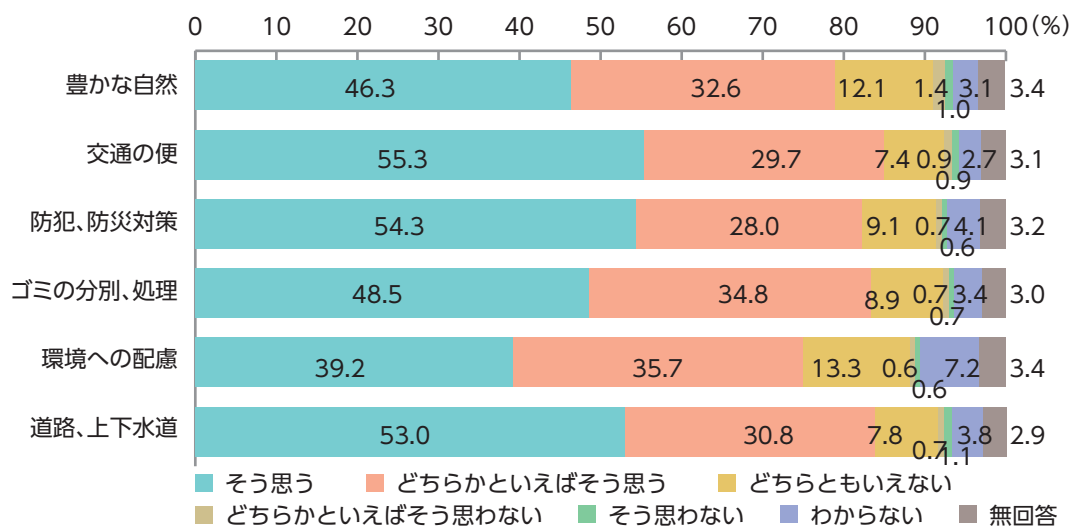
[産業・観光・雇用]

産業・観光・雇用分野の重要度において、『思う』の割合が高い項目は「働く場がある」(85.3%)、「観光地としての魅力を感じる」(77.6%) などとなっています。



[自然環境・都市基盤・生活環境]

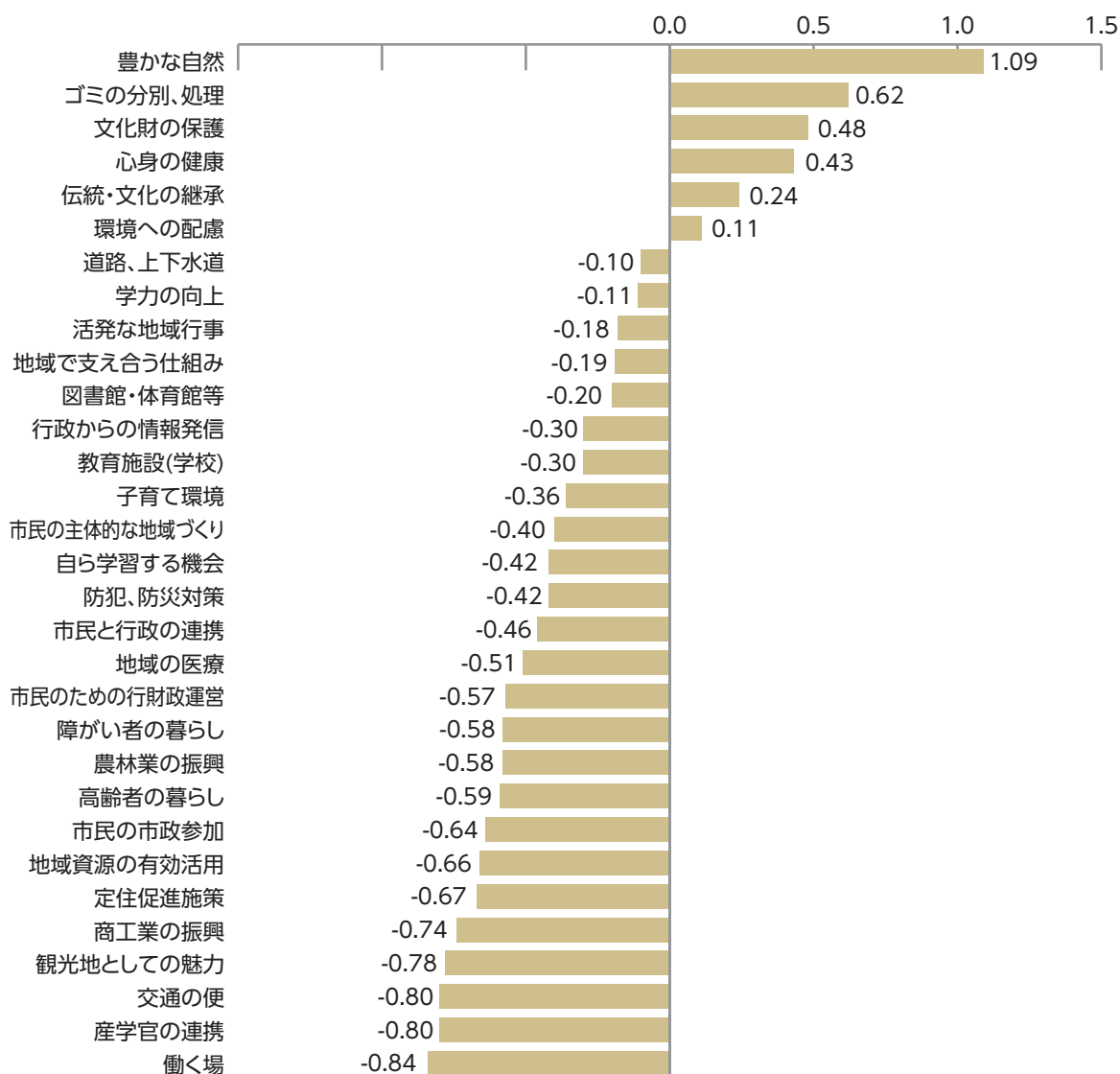
自然環境・都市基盤・生活環境分野の重要度において、『思う』の割合が高い項目は「交通の便」(85.0%)、「道路、上下水道などが整っている」(83.8%)などとなっています。



■満足度：点数換算

満足度に対する回答を点数化すると、「豊かな自然が残っている」が 1.09 点で最も高く、次いで「ゴミの分別、処理が適切に行われている」(0.52 点)、「文化財が保護されている」(0.48 点)と続いています。

一方、点数が低い項目は「働く場がある」(-0.84 点)、「産学官の連携が図られている」(-0.80 点)、「交通の便がよく移動しやすい」(-0.80 点)などとなっています。



※そう思う：2点、どちらかといえばそう思う：1点、どちらともいえない：0点

どちらかといえばそう思わない：-1点、そう思わない：-2点

とし、それぞれの回答数に乗じた合計を全体数（わからない、無回答除く）で除した点数

【年代別】

満足度の点数を年齢別にみると、すべての年代で「豊かな自然」の点数が最も高くなっているほか、上位5項目が同じ項目となっています。

点数が低い項目として、10歳代、20歳代では「観光地としての魅力」が最も低くなっているほか、「市民の市政参画」が下位にきています。また、40歳代以上では、「働く場」、「産学官の連携」に加え、「商工業の振興」など産業・雇用分野の項目が下位の多くを占めています。

年代	上位5項目	点数	下位5項目	点数
10歳代	豊かな自然	1.17	観光地としての魅力	-0.55
	心身の健康	1.13	防犯、防災対策	-0.18
	文化財の保護	0.91	市民の市政参加	-0.16
	伝統・文化の継承	0.79	地域資源の有効活用	-0.10
	ゴミの分別、処理	0.62	産学官の連携	-0.09
20歳代	豊かな自然	1.21	観光地としての魅力	-0.82
	心身の健康	0.64	交通の便	-0.71
	文化財の保護	0.53	働く場	-0.67
	ゴミの分別、処理	0.51	自ら学習する機会	-0.67
	伝統・文化の継承	0.28	市民の市政参加	-0.64
30歳代	豊かな自然	1.19	産学官の連携	-0.84
	文化財の保護	0.65	観光地としての魅力	-0.80
	ゴミの分別、処理	0.61	働く場	-0.73
	心身の健康	0.49	交通の便	-0.73
	伝統・文化の継承	0.34	市民のための行財政運営	-0.67
40歳代	豊かな自然	1.06	交通の便	-0.85
	ゴミの分別、処理	0.66	働く場	-0.84
	文化財の保護	0.51	商工業の振興	-0.69
	心身の健康	0.43	産学官の連携	-0.69
	伝統・文化の継承	0.31	高齢者の暮らし	-0.68
50歳代	豊かな自然	1.03	働く場	-0.96
	ゴミの分別、処理	0.57	交通の便	-0.92
	文化財の保護	0.37	産学官の連携	-0.91
	心身の健康	0.28	観光地としての魅力	-0.82
	伝統・文化の継承	0.15	商工業の振興	-0.81
60歳代以上	豊かな自然	1.08	働く場	-0.98
	ゴミの分別、処理	0.70	商工業の振興	-0.96
	文化財の保護	0.40	産学官の連携	-0.94
	心身の健康	0.39	定住促進施策	-0.89
	伝統・文化の継承	0.13	農林業の振興	-0.84

【居住地域別】

満足度の点数を居住地域別にみると、すべての地区で「豊かな自然」の点数が最も高いほか、白石地区、越河地区を除くすべての地区で上位5項目が同じ項目となっています。白石地区では「道路、上水道」、越河地区では「環境への配慮」が上位にきています。

点数が低い項目では、白石地区、斎川地区、大平地区を除くすべての地区で「交通の便」が最も低くなっています。白石地区、大平地区では「交通の便」が下位5項目には入っていませんでした。また、大平地区では「市民の市政参画」が最も低く、白石地区、福岡地区においても下位に位置しています。白川地区では「教育施設(学校)」が、小原地区では「高齢者の暮らし」が下位5項目に入ってきています。

白石地区	上位5項目	点数	下位5項目	点数
	豊かな自然	1.04	産学官の連携	-0.81
	ゴミの分別、処理	0.62	働く場	-0.79
	心身の健康	0.48	観光地としての魅力	-0.76
	文化財の保護	0.46	商工業の振興	-0.73
	道路、上下水道	0.20	市民の市政参加	-0.68

越河地区	上位5項目	点数	下位5項目	点数
	豊かな自然	1.02	交通の便	-1.04
	ゴミの分別、処理	0.79	産学官の連携	-0.84
	心身の健康	0.47	働く場	-0.84
	文化財の保護	0.32	定住促進施策	-0.81
	環境への配慮	0.21	商工業の振興	-0.70

斎川地区	上位5項目	点数	下位5項目	点数
	豊かな自然	0.88	商工業の振興	-1.15
	ゴミの分別、処理	0.57	交通の便	-1.13
	文化財の保護	0.42	働く場	-1.03
	心身の健康	0.27	産学官の連携	-0.91
	伝統・文化の継承	0.26	農林業の振興	-0.88

大平地区	上位5項目	点数	下位5項目	点数
	豊かな自然	1.08	市民の市政参加	-0.87
	ゴミの分別、処理	0.77	産学官の連携	-0.86
	心身の健康	0.56	観光地としての魅力	-0.83
	文化財の保護	0.35	商工業の振興	-0.80
	伝統・文化の継承	0.30	働く場	-0.75

大鷹沢地区	上位5項目	点数	下位5項目	点数
	豊かな自然	1.22	交通の便	-0.94
	文化財の保護	0.65	働く場	-0.83
	ゴミの分別、処理	0.48	産学官の連携	-0.80
	伝統・文化の継承	0.46	商工業の振興	-0.77
	心身の健康	0.32	定住促進施策	-0.71

白川地区	上位 5 項目		下位 5 項目	
	項目	点数	項目	点数
	豊かな自然	1.18	交通の便	-1.08
	ゴミの分別、処理	0.62	働く場	-0.94
	文化財の保護	0.51	教育施設（学校）	-0.92
	心身の健康	0.36	観光地としての魅力	-0.87
	伝統・文化の継承	0.18	定住促進施策	-0.83

福岡地区	上位 5 項目		下位 5 項目	
	項目	点数	項目	点数
	豊かな自然	1.18	交通の便	-0.77
	ゴミの分別、処理	0.65	働く場	-0.76
	文化財の保護	0.59	観光地としての魅力	-0.70
	心身の健康	0.54	産学官の連携	-0.58
	伝統・文化の継承	0.33	市民の市政参加	-0.53

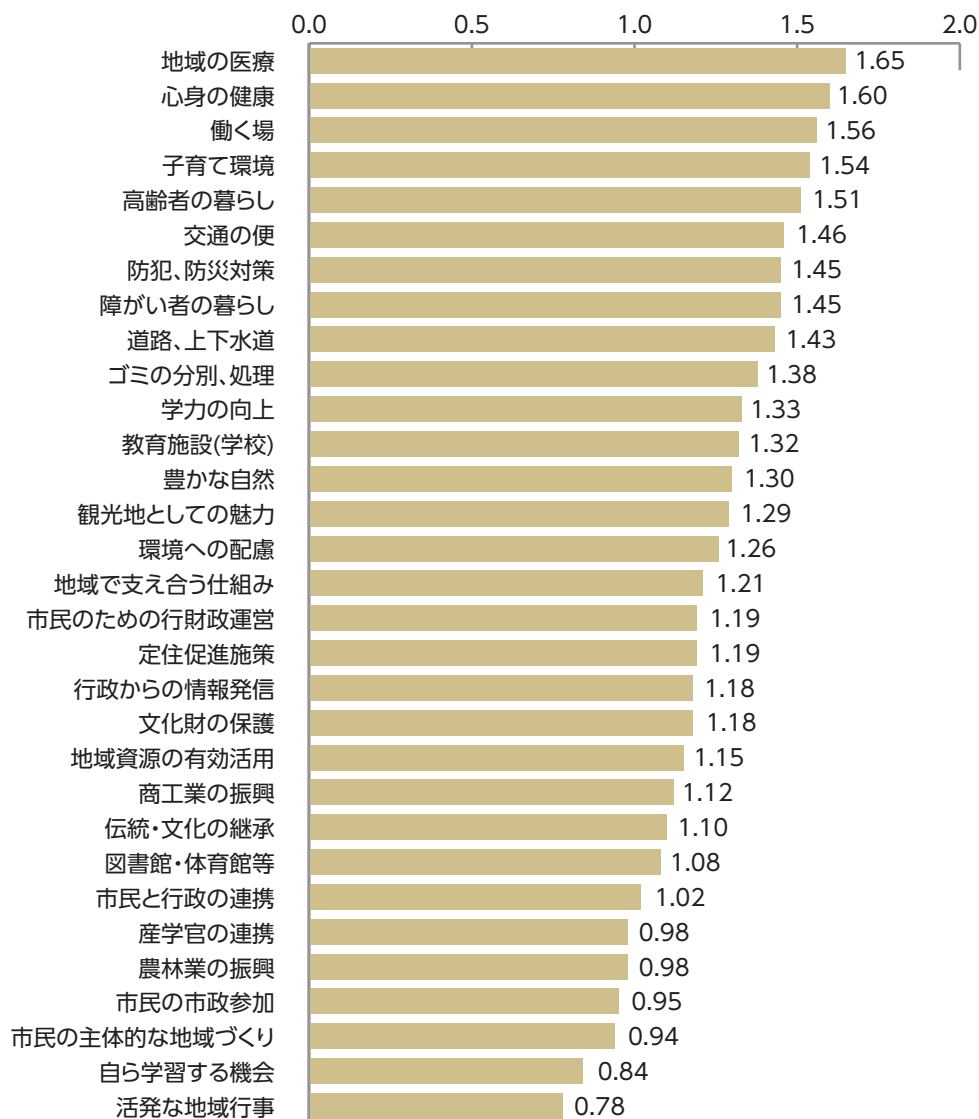
深谷地区	上位 5 項目		下位 5 項目	
	項目	点数	項目	点数
	豊かな自然	1.05	交通の便	-1.11
	文化財の保護	0.52	観光地としての魅力	-0.92
	ゴミの分別、処理	0.44	産学官の連携	-0.80
	心身の健康	0.25	働く場	-0.78
	伝統・文化の継承	0.23	商工業の振興	-0.78

小原地区	上位 5 項目		下位 5 項目	
	項目	点数	項目	点数
	豊かな自然	1.24	交通の便	-1.46
	ゴミの分別、処理	0.76	働く場	-1.00
	文化財の保護	0.64	観光地としての魅力	-0.91
	心身の健康	0.47	高齢者の暮らし	-0.90
	伝統・文化の継承	0.21	産学官の連携	-0.89

■重要度：点数換算

重要度に対する回答を点数化すると、「地域の医療に安心感が持てる」が1.65点で最も高く、次いで「心身ともに健康で暮らしている」(1.60点)、「働く場がある」(1.56点)と続いています。

一方、点数が低い項目は「地域の行事が活発に行われている」(0.78点)、「市民が自ら学習する機会が提供されている」(0.84点)、「市民が主体的に地域づくりを行っている」(0.94点)などとなっています。



※重要である：2点、どちらかといえば重要である：1点、どちらともいえない：0点

どちらかといえば重要ではない：-1点、重要ではない：-2点

とし、それぞれの回答数に乗じた合計を全体数（わからない、無回答除く）で除した点数

[年代別]

重要度の点数を年齢別にみると、10歳代を除くすべての年代で「地域の医療」が最も高く、10歳代は「心身の健康」が最も高くなっています。「地域の医療」、「心身の健康」のほか「子育て環境」はすべての年代で上位5項目に入っています。また、10歳代では「学力の向上」、「教育施設（学校）」が、20歳代では「防犯、防災対策」が、30歳代以上では「高齢者の暮らし」、「働く場」が上位5項目に入っています。

年代	上位5項目	点数	下位5項目	点数
10歳代	心身の健康	1.62	市民の主体的な地域づくり	0.91
	地域の医療	1.58	市民と行政の連携	0.96
	交通の便	1.54	市民の市政参加	1.02
	学力の向上	1.52	自ら学習する機会	1.02
	教育施設（学校）	1.52	活発な地域行事	1.03
20歳代	地域の医療	1.64	自ら学習する機会	0.77
	交通の便	1.62	活発な地域行事	0.79
	心身の健康	1.58	産学官の連携	0.89
	子育て環境	1.51	市民の市政参加	0.95
	防犯、防災対策	1.48	市民の主体的な地域づくり	0.97
30歳代	地域の医療	1.61	自ら学習する機会	0.66
	子育て環境	1.59	市民の市政参加	0.78
	心身の健康	1.57	活発な地域行事	0.79
	働く場	1.54	市民の主体的な地域づくり	0.92
	高齢者の暮らし	1.43	農林業の振興	0.93
40歳代	地域の医療	1.65	自ら学習する機会	0.71
	心身の健康	1.61	活発な地域行事	0.73
	働く場	1.57	市民の主体的な地域づくり	0.93
	子育て環境	1.56	市民の市政参加	0.93
	交通の便	1.54	産学官の連携	0.95
50歳代	地域の医療	1.70	活発な地域行事	0.70
	心身の健康	1.63	市民の主体的な地域づくり	0.87
	高齢者の暮らし	1.61	自ら学習する機会	0.88
	働く場	1.61	市民の市政参加	0.95
	子育て環境	1.55	農林業の振興	0.96
60歳代以上	地域の医療	1.65	活発な地域行事	0.86
	心身の健康	1.58	農林業の振興	0.99
	働く場	1.55	自ら学習する機会	0.99
	子育て環境	1.50	市民の主体的な地域づくり	1.03
	高齢者の暮らし	1.50	市民の市政参加	1.04

【居住地域別】

重要度の点数を居住地域別にみると、越河地区、大鷹沢地区では「働く場」、深谷地区では「高齢者の暮らし」、小原地区では「心身の健康」が最も高く、それ以外の地区では「地域の医療」が最も高くなっています。「地域の医療」、「心身の健康」はすべての地区で、「働く場」は齋川地区以外のすべての地区で、「高齢者の暮らし」は大平地区、福岡地区を除くすべての地区で上位5項目に入っています。このほか、越河地区では「交通の便」が、齋川地区では「防犯、防災対策」が、大平地区、深谷地区では「道路、上下水道」が、福岡地区では「障がい者の暮らし」が上位にきています。

白石地区	上位5項目	点数	下位5項目	点数
	地域の医療	1.70	活発な地域行事	0.83
	心身の健康	1.67	自ら学習する機会	0.89
	働く場	1.59	市民の市政参加	0.92
	子育て環境	1.58	市民の主体的な地域づくり	0.93
	高齢者の暮らし	1.55	農林業の振興	0.97

越河地区	上位5項目	点数	下位5項目	点数
	働く場	1.63	自ら学習する機会	0.73
	交通の便	1.57	活発な地域行事	0.87
	地域の医療	1.56	農林業の振興	0.89
	心身の健康	1.55	産学官の連携	0.89
	高齢者の暮らし	1.52	図書館・体育館等	0.92

齋川地区	上位5項目	点数	下位5項目	点数
	地域の医療	1.63	活発な地域行事	0.78
	防犯、防災対策	1.58	自ら学習する機会	0.92
	高齢者の暮らし	1.57	市民の市政参加	0.94
	子育て環境	1.54	農林業の振興	0.96
	心身の健康	1.50	市民の主体的な地域づくり	1.02

大平地区	上位5項目	点数	下位5項目	点数
	地域の医療	1.67	活発な地域行事	0.76
	心身の健康	1.55	自ら学習する機会	0.78
	子育て環境	1.52	市民の主体的な地域づくり	0.85
	働く場	1.47	市民の市政参加	0.88
	道路、上下水道	1.44	産学官の連携	0.95

大鷹沢地区	上位 5 項目		下位 5 項目	
		点数		点数
	働く場	1.60	活発な地域行事	0.73
	地域の医療	1.55	自ら学習する機会	0.85
	心身の健康	1.55	市民の主体的な地域づくり	0.92
	子育て環境	1.49	産学官の連携	1.02
	高齢者の暮らし	1.49	市民と行政の連携	1.03

白川地区	上位 5 項目		下位 5 項目	
		点数		点数
	地域の医療	1.72	活発な地域行事	0.61
	心身の健康	1.62	自ら学習する機会	0.71
	子育て環境	1.56	市民の主体的な地域づくり	0.83
	働く場	1.54	市民の市政参加	0.92
	高齢者の暮らし	1.53	市民と行政の連携	0.96

福岡地区	上位 5 項目		下位 5 項目	
		点数		点数
	地域の医療	1.75	活発な地域行事	0.81
	子育て環境	1.61	自ら学習する機会	0.86
	心身の健康	1.61	農林業の振興	0.87
	働く場	1.54	産学官の連携	0.98
	障がい者の暮らし	1.48	図書館・体育館等	1.00

深谷地区	上位 5 項目		下位 5 項目	
		点数		点数
	高齢者の暮らし	1.59	自ら学習する機会	0.83
	地域の医療	1.57	活発な地域行事	0.96
	心身の健康	1.57	市民の市政参加	1.00
	働く場	1.54	市民の主体的な地域づくり	1.04
	道路、上下水道	1.53	市民と行政の連携	1.09

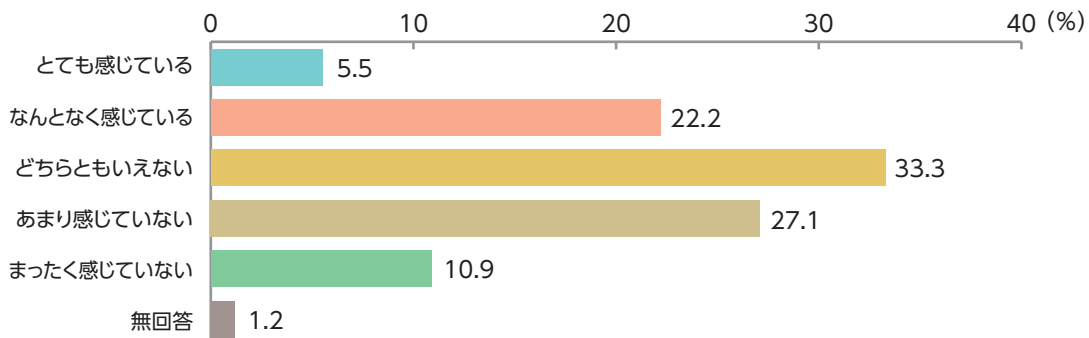
小原地区	上位 5 項目		下位 5 項目	
		点数		点数
	心身の健康	1.58	活発な地域行事	0.58
	地域の医療	1.55	自ら学習する機会	0.81
	ゴミの分別、処理	1.46	産学官の連携	0.82
	働く場	1.45	市民の市政参加	0.88
	高齢者の暮らし	1.42	市民の主体的な地域づくり	0.89

4 白石市への誇りについて

問 4 あなたは、白石市で暮らしていることについて、誇らしいと感じていますか。
(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

白石市で暮らしていることへの誇りについて、「とても感じている」(5.5%)と「なんとなく感じている」(22.2%)を合わせた『感じている』が27.7%、「あまり感じていない」(27.1%)と「まったく感じていない」(10.9%)を合わせた『感じていない』が38.0%、「どちらともいえない」が33.3%となっています。

年齢別にみると、10歳代で『感じている』の割合が他の年代に比べて高くなっています。



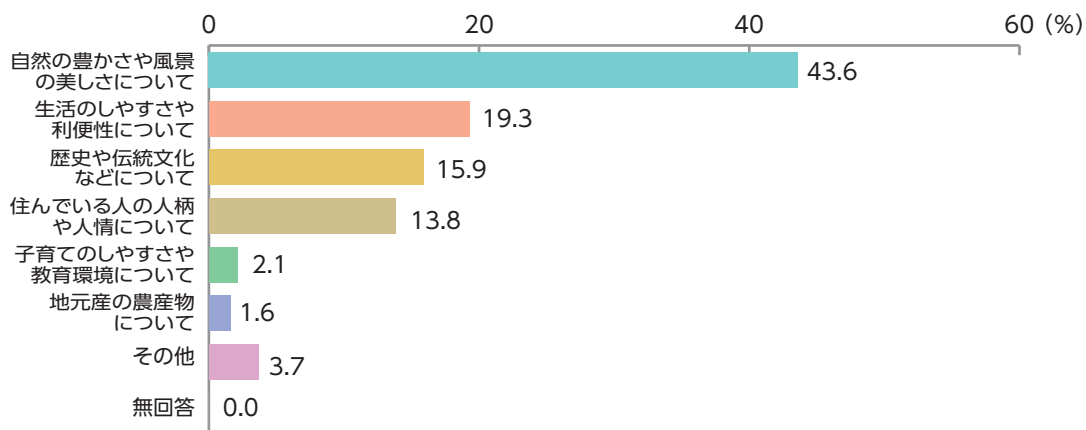
		合計	とても感じている	なんとなく感じている	どちらともいえない	あまり感じていない	まったく感じていない	無回答
全体		1,386	5.5	22.2	33.3	27.1	10.9	1.2
年齢	10歳代	67	9.0	31.3	31.3	16.4	11.9	0.0
	20歳代	126	4.8	19.0	37.3	23.8	15.1	0.0
	30歳代	191	6.8	20.9	26.2	28.8	14.7	2.6
	40歳代	241	6.6	26.1	30.7	25.7	10.4	0.4
	50歳代	412	3.6	20.9	37.4	27.7	9.7	0.7
	60歳代以上	338	5.9	21.3	32.5	29.9	8.6	1.8
性別	男性	618	7.6	21.8	30.9	26.7	11.5	1.5
	女性	734	3.7	22.6	34.9	27.9	10.2	0.7
居住地域	白石地区	446	5.6	24.0	33.6	25.1	10.8	0.9
	越河地区	107	2.8	24.3	33.6	26.2	12.1	0.9
	斎川地区	72	0.0	23.6	33.3	31.9	11.1	0.0
	大平地区	142	7.0	16.2	33.8	31.0	9.9	2.1
	大鷹沢地区	173	8.1	23.1	28.3	27.7	9.8	2.9
	白川地区	126	3.2	18.3	33.3	33.3	10.3	1.6
	福岡地区	134	8.2	26.9	34.3	22.4	8.2	0.0
	深谷地区	75	5.3	20.0	40.0	22.7	12.0	0.0
	小原地区	90	5.6	20.0	32.2	27.8	14.4	0.0

問 4-1 問4で「1. とても感じている」、「2. なんとなく感じている」に回答された方にお聞きします。その理由は何ですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

誇らしいと感じていると回答した人に、その理由についてうかがったところ、「自然の豊かさや風景の美しさについて」が43.6%で最も高く、次いで「生活のしやすさや利便性について」(19.3%)、「歴史や伝統文化などについて」(15.9%)と続いています。

年齢別にみると、20歳代以下では「歴史や伝統文化などについて」の割合が他の年代に比べて高くなっています。

地区別にみると、白石地区では、「生活のしやすさや利便性について」の割合が最も高くなっています。



		合計	自然の豊かさや風景の美しさについて	生活のしやすさや利便性について	歴史や伝統文化などについて	住んでいる人の人柄や人情について	子育てのしやすさや教育環境について	地元産の農産物について	その他	無回答
全体		383	43.6	19.3	15.9	13.8	2.1	1.6	3.7	0.0
年齢	10歳代	27	33.3	18.5	29.6	11.1	0.0	0.0	7.4	0.0
	20歳代	30	46.7	16.7	26.7	3.3	3.3	3.3	0.0	0.0
	30歳代	53	28.3	24.5	20.8	15.1	7.5	0.0	3.8	0.0
	40歳代	79	41.8	20.3	16.5	13.9	1.3	1.3	5.1	0.0
	50歳代	101	55.4	20.8	8.9	8.9	2.0	0.0	4.0	0.0
	60歳代以上	92	43.5	14.1	13.0	22.8	0.0	4.3	2.2	0.0
性別	男性	182	36.3	19.2	19.8	17.6	2.7	0.0	4.4	0.0
	女性	193	50.3	19.7	11.9	10.4	1.6	3.1	3.1	0.0
居住地域	白石地区	132	32.6	34.8	15.9	7.6	2.3	2.3	4.5	0.0
	越河地区	29	37.9	6.9	27.6	20.7	3.4	0.0	3.4	0.0
	斎川地区	17	58.8	11.8	11.8	17.6	0.0	0.0	0.0	0.0
	大平地区	33	42.4	18.2	3.0	30.3	6.1	0.0	0.0	0.0
	大鷹沢地区	54	50.0	11.1	20.4	7.4	3.7	1.9	5.6	0.0
	白川地区	27	55.6	7.4	14.8	18.5	0.0	0.0	3.7	0.0
	福岡地区	47	51.1	12.8	6.4	23.4	0.0	2.1	4.3	0.0
	深谷地区	19	42.1	10.5	36.8	5.3	0.0	5.3	0.0	0.0
小原地区	23	60.9	4.3	17.4	13.0	0.0	0.0	4.3	0.0	

5 地域活動・まちづくりへの参加状況

問5 あなたは、最近（ここ5年間くらい）、以下の地域活動やまちづくりの取り組みに参加したことがありますか。また、今後（も）参加したいと思いますか。さらに、その活動や取組は今後、必要だと思いませんか。

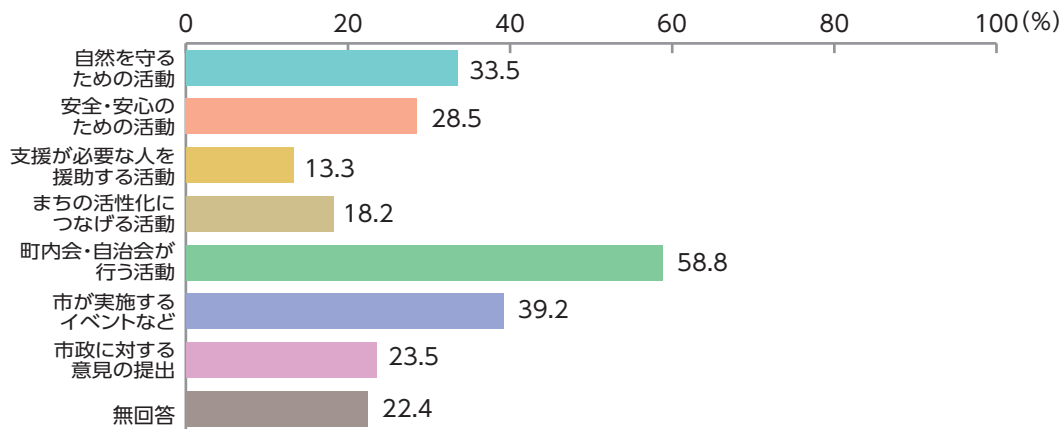
①最近、②今後、③必要性について、あてはまるものに○をつけてください。

① 最近

ここ5年間くらいで参加したことがある地域活動やまちづくりの取り組みについて、「町内会・自治会が行う活動」が58.8%で最も高く、次いで「市が実施するイベントなど」(39.2%)、「自然を守るための活動」(33.5%)と続いています。

年齢別にみると、30歳代以下では「市が実施するイベントなど」の割合が最も高く、「町内会・自治会が行う活動」は約2～4割と低くなっています。また、20歳代では無回答が4割半ばと高くなっています。

地区別にみると、「町内会・自治会が行う活動」は、特に小原地区で7割以上と高く、白石地区では他の地区に比べて低くなっています。また、斎川地区では他の地区に比べて「市政に対する意見の提出」の割合が高くなっています。



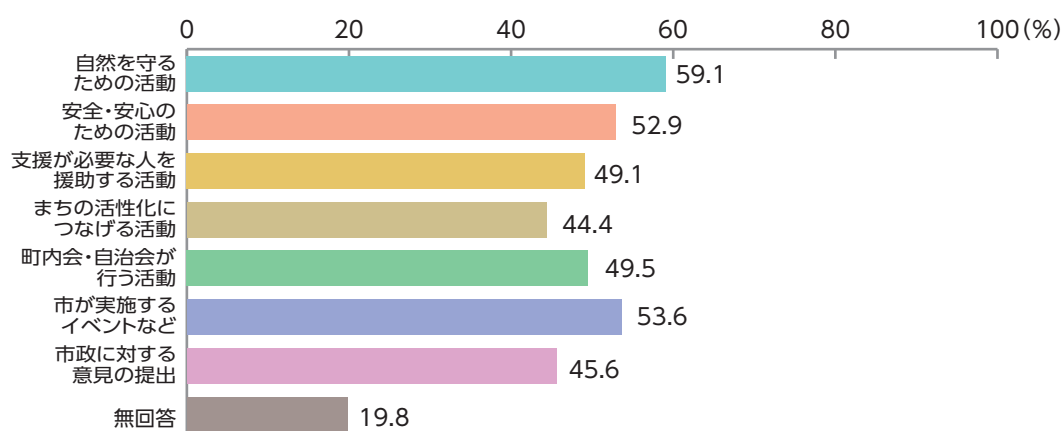
		参加状況 (%)								
		合計	自然を守るための活動	安全・安心のための活動	支援が必要な人を援助する活動	まちの活性化につなげる活動	町内会・自治会が行う活動	市が実施するイベントなど	市政に対する意見の提出	無回答
全体		1,386	33.5	28.5	13.3	18.2	58.8	39.2	23.5	22.4
年齢	10歳代	67	29.9	16.4	16.4	32.8	29.9	53.7	13.4	26.9
	20歳代	126	11.9	10.3	13.5	12.7	19.0	33.3	20.6	46.0
	30歳代	191	25.1	21.5	10.5	16.8	37.2	43.5	24.1	33.0
	40歳代	241	30.3	33.6	7.1	18.7	61.0	40.7	27.8	20.3
	50歳代	412	37.1	30.1	14.3	16.7	68.9	36.9	21.1	18.4
	60歳代以上	338	45.0	36.1	17.8	19.8	78.1	38.8	26.3	12.7
性別	男性	618	39.2	32.7	12.5	19.6	59.4	32.8	22.0	26.2
	女性	734	29.0	24.7	14.0	16.9	58.2	45.1	24.9	19.6
居住地域	白石地区	446	28.7	20.4	11.0	19.3	48.4	43.3	21.7	25.3
	越河地区	107	36.4	33.6	10.3	17.8	66.4	34.6	21.5	17.8
	斎川地区	72	31.9	38.9	12.5	15.3	65.3	36.1	37.5	19.4
	大平地区	142	33.8	22.5	16.2	20.4	65.5	45.8	23.2	18.3
	大鷹沢地区	173	31.8	39.9	21.4	18.5	63.6	35.8	24.9	19.7
	白川地区	126	42.9	30.2	9.5	15.9	67.5	34.1	23.8	17.5
	福岡地区	134	38.8	23.1	12.7	17.9	56.7	40.3	23.1	26.1
	深谷地区	75	34.7	34.7	16.0	21.3	53.3	36.0	20.0	29.3
	小原地区	90	36.7	41.1	12.2	14.4	73.3	34.4	28.9	20.0

② 今後

今後（も）参加してみたい活動や取り組みについて、「自然を守るための活動」が59.1%で最も高く、次いで「市が実施するイベントなど」（53.6%）、「安全・安心のための活動」（52.9%）と続いています。

年齢別にみると、特に10歳代で「市が実施するイベントなど」の割合が高いほか、「まちの活性化につながる活動」の割合が他の年代に比べて高くなっています。一方、20歳代では「町内会・自治会が行う活動」をはじめ多くの項目で他の年代と比べて低い割合となっています。

地区別にみると、深谷地区で「安全・安心を守るための活動」、「まちの活性化につながるための活動」など多くの項目で他の地区と比べて高い割合となっています。

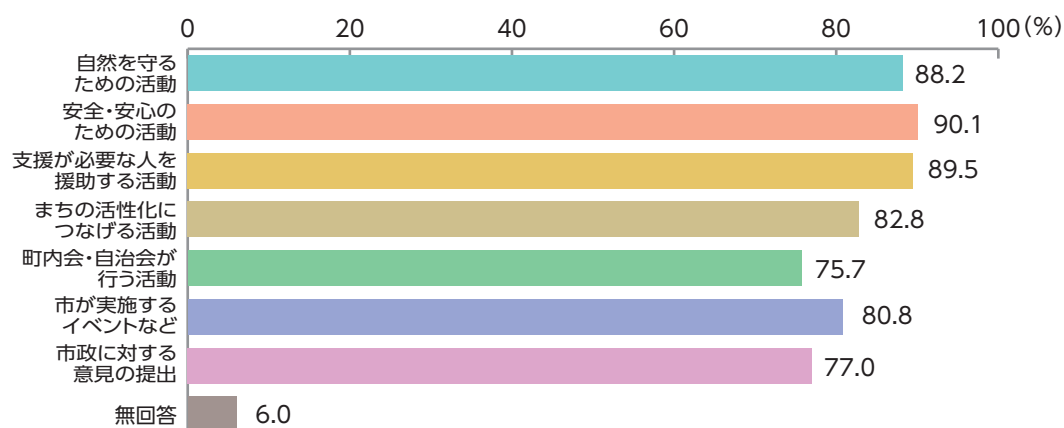


		合計	自然を守るための活動	安全・安心のための活動	支援が必要な人を援助する活動	まちの活性化につながる活動	町内会・自治会が行う活動	市が実施するイベントなど	市政に対する意見の提出	無回答
全体		1,386	59.1	52.9	49.1	44.4	49.5	53.6	45.6	19.8
年齢	10歳代	67	50.7	52.2	53.7	59.7	49.3	67.2	29.9	14.9
	20歳代	126	49.2	42.9	39.7	42.9	25.4	49.2	37.3	28.6
	30歳代	191	56.5	51.3	48.2	46.6	34.0	62.8	54.5	19.9
	40歳代	241	60.2	57.3	46.9	46.9	51.9	54.4	51.0	17.0
	50歳代	412	59.7	51.7	51.2	40.8	51.5	48.3	42.0	21.4
	60歳代以上	338	65.1	56.5	51.8	44.1	63.9	54.1	47.6	16.6
性別	男性	618	58.7	51.8	44.5	43.5	50.0	50.3	45.1	22.7
	女性	734	60.2	54.0	53.0	45.2	49.3	56.8	46.3	16.9
居住地域	白石地区	446	59.9	52.0	50.7	49.1	47.1	57.8	46.6	19.1
	越河地区	107	60.7	49.5	49.5	41.1	57.9	50.5	38.3	17.8
	齋川地区	72	58.3	54.2	48.6	48.6	54.2	58.3	51.4	18.1
	大平地区	142	59.2	47.9	48.6	39.4	45.1	51.4	43.0	21.8
	大鷹沢地区	173	54.9	50.9	49.7	40.5	50.3	49.1	49.1	21.4
	白川地区	126	57.1	55.6	44.4	37.3	48.4	46.8	42.1	22.2
	福岡地区	134	62.7	53.0	48.5	44.0	53.0	56.0	45.5	16.4
	深谷地区	75	69.3	65.3	53.3	56.0	53.3	64.0	56.0	17.3
小原地区	90	54.4	60.0	46.7	40.0	48.9	45.6	41.1	18.9	

③ 必要性

必要だと思う地域活動やまちづくりの取り組みについて、「安全・安心を守るための活動」が90.1%で最も高く、次いで「支援が必要な人を援助する活動」(89.5%)、「自然を守るための活動」(88.2%)と続いています。

年齢別にみると、20歳代で「町内会・自治会が行う活動」が約6割と他の年代に比べて低くなっています。



		合計	自然を守るための活動	安全・安心のための活動	支援が必要な人を援助する活動	まちの活性化につながる活動	町内会・自治会が行う活動	市が実施するイベントなど	市政に対する意見の提出	無回答
全体		1,386	88.2	90.1	89.5	82.8	75.7	80.8	77.0	6.0
年齢	10歳代	67	85.1	92.5	95.5	91.0	76.1	91.0	77.6	4.5
	20歳代	126	84.9	88.1	85.7	80.2	59.5	81.7	66.7	9.5
	30歳代	191	90.1	87.4	91.6	85.3	67.5	85.3	81.7	5.8
	40歳代	241	89.2	90.9	89.6	85.9	74.7	81.3	75.9	5.0
	50歳代	412	87.6	91.5	89.3	79.4	78.6	76.5	78.2	5.6
	60歳代以上	338	89.6	90.8	89.9	83.4	84.6	82.0	78.7	5.3
性別	男性	618	84.5	87.4	86.6	79.6	75.4	77.7	73.9	7.9
	女性	734	91.4	92.9	92.4	85.8	76.6	84.5	80.5	4.0
居住地域	白石地区	446	88.8	91.0	90.6	83.2	75.1	84.3	78.0	6.3
	越河地区	107	86.9	88.8	86.9	80.4	75.7	77.6	76.6	6.5
	斎川地区	72	90.3	91.7	91.7	83.3	79.2	83.3	75.0	5.6
	大平地区	142	88.7	90.8	90.1	82.4	75.4	83.8	81.0	5.6
	大鷹沢地区	173	87.3	87.9	88.4	82.7	75.7	81.5	79.2	5.2
	白川地区	126	85.7	90.5	91.3	81.7	74.6	75.4	74.6	6.3
	福岡地区	134	89.6	91.0	89.6	85.8	76.1	76.9	76.9	6.0
	深谷地区	75	90.7	90.7	88.0	85.3	78.7	81.3	73.3	5.3
	小原地区	90	90.0	92.2	92.2	82.2	80.0	77.8	74.4	2.2

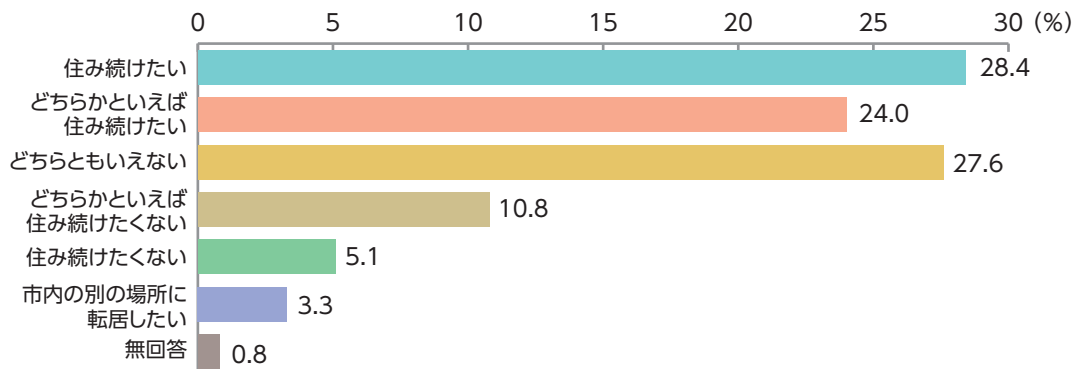
6 今後の定住意向

問6 あなたは、これからも白石市に住み続けたいと思いますか。
(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

白石市での定住意向について、「住み続けたい」(28.4%)と「どちらかといえば住み続けたい」(24.0%)を合わせた『住み続けたい』が52.4%、「どちらかといえば住み続けたくない」(10.8%)と「住み続けたくない」(5.1%)を合わせた『住み続けたくない』が15.9%、「どちらともいえない」が27.6%となっています。

年齢別にみると、30歳代以下では「どちらともいえない」の割合が最も高く、特に20歳代で約4割と高くなっています。

地区別にみると、福岡地区で「住み続けたい」が約4割と高くなっています。また、小原地区では、他の地区に比べて「市内の別の場所に転居したい」の割合がやや高くなっています。



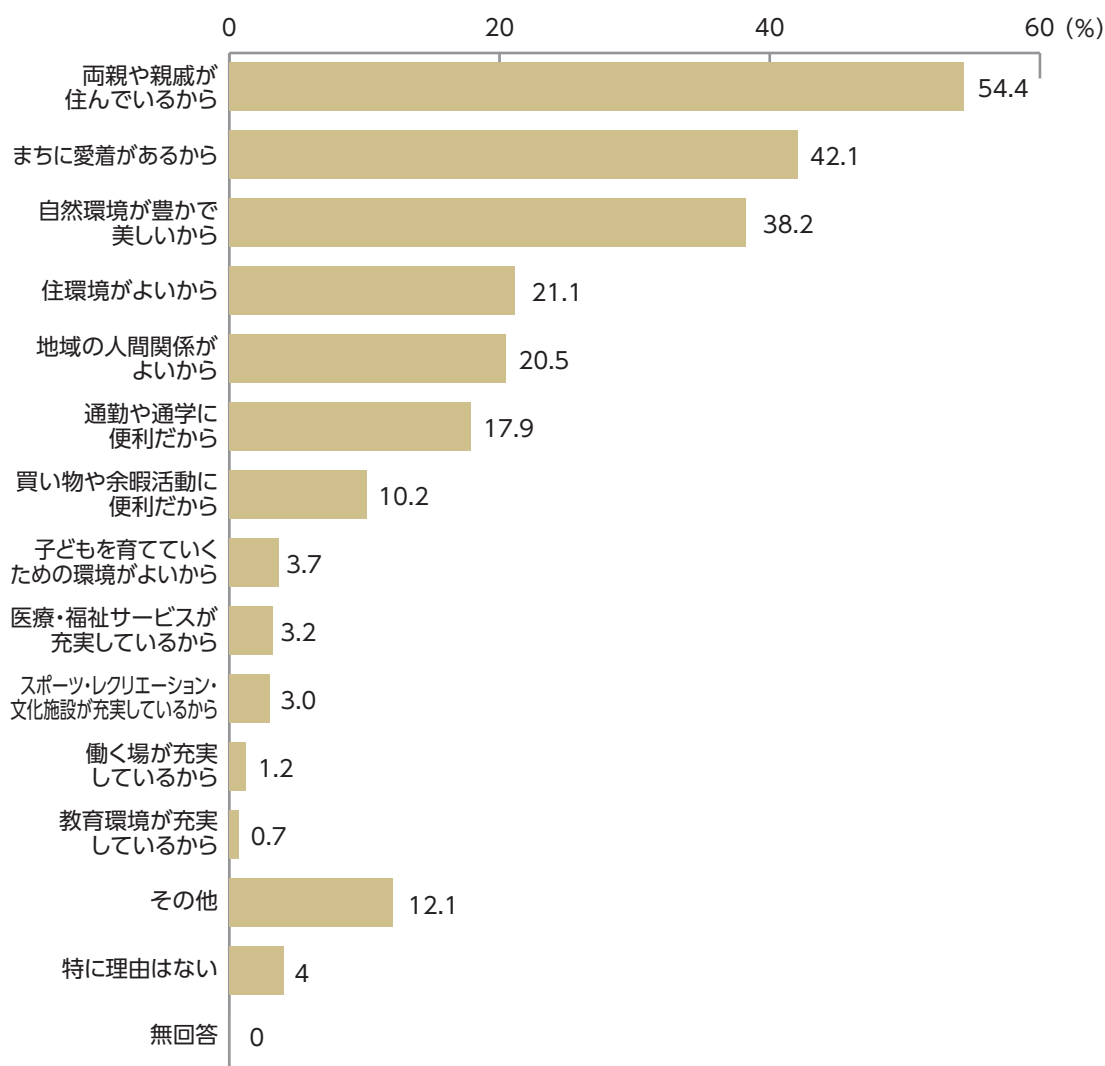
	合計	住み続けたい	どちらかといえば住み続けたい	どちらともいえない	どちらかといえば住み続けたくない	住み続けたくない	市内の別の場所に転居したい	無回答	
全体	1,386	28.4	24.0	27.6	10.8	5.1	3.3	0.8	
年齢	10歳代	67	14.9	28.4	31.3	11.9	11.9	1.5	0.0
	20歳代	126	16.7	16.7	38.1	14.3	8.7	5.6	0.0
	30歳代	191	25.7	20.4	27.7	14.7	6.8	3.7	1.0
	40歳代	241	32.0	26.1	26.6	9.5	3.3	2.1	0.4
	50歳代	412	24.8	27.2	27.9	10.7	4.4	4.1	1.0
	60歳代以上	338	38.8	22.5	23.4	8.0	3.8	2.7	0.9
性別	男性	618	32.8	23.6	26.4	9.4	3.7	2.9	1.1
	女性	734	24.3	24.8	29.0	11.9	5.9	3.8	0.4
居住地域	白石地区	446	27.4	27.1	27.1	11.2	5.2	1.6	0.4
	越河地区	107	20.6	32.7	28.0	7.5	4.7	4.7	1.9
	斎川地区	72	22.2	22.2	37.5	11.1	2.8	4.2	0.0
	大平地区	142	29.6	27.5	23.2	14.1	2.8	1.4	1.4
	大鷹沢地区	173	31.2	17.9	26.0	10.4	6.4	6.4	1.7
	白川地区	126	26.2	23.8	26.2	15.9	5.6	1.6	0.8
	福岡地区	134	40.3	17.2	28.4	7.5	5.2	1.5	0.0
	深谷地区	75	29.3	24.0	29.3	8.0	5.3	4.0	0.0
	小原地区	90	26.7	17.8	30.0	7.8	5.6	12.2	0.0

問 6-1 問 6 で「1. 住み続けたい」、「2. どちらかといえば住み続けたい」に回答された方にお聞きします。
その理由は何ですか。(あてはまる番号3つまでに○をつけてください。)

『住み続けたい』と回答した人にその理由をうかがったところ、「両親や親戚が住んでいるから」が54.4%で最も高く、次いで「まちに愛着があるから」(42.1%)、「自然環境が豊かで美しいから」(38.2%)と続いています。

年齢別にみると、特に20歳代で「両親や親戚が住んでいるから」、「まちに愛着があるから」の割合が高く、10歳代でも「まちに愛着があるから」、「自然環境が豊かで美しいから」の割合が他の年代に比べて高くなっています。また、20歳代、30歳代では「通勤や通学に便利だから」が3割以上と他の年代に比べて高くなっています。

地区別にみると、小原地区では「自然環境が豊かで美しいから」の割合が最も高くなっています。



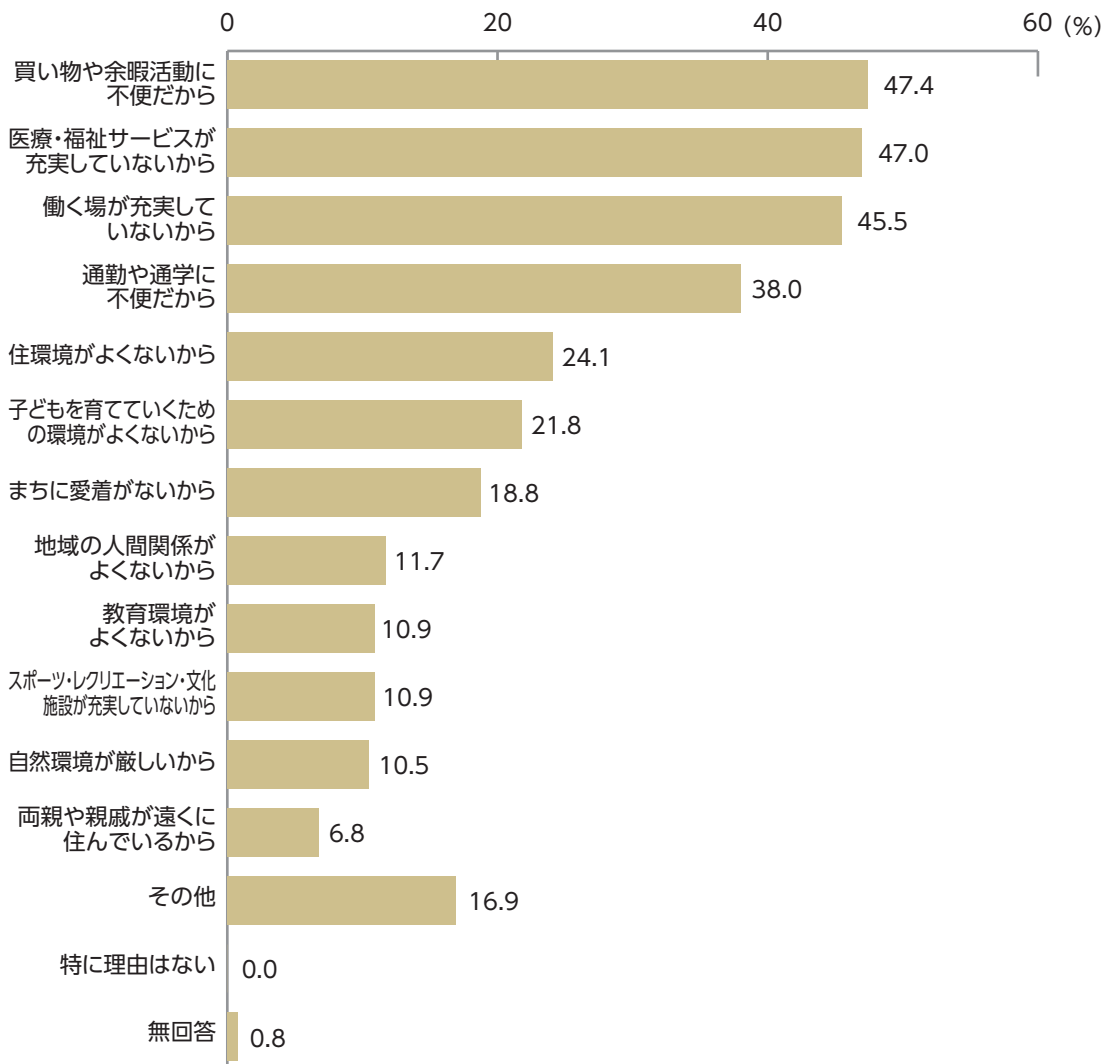
		合計	両親や親戚が住んでいるから	まちに愛着があるから	自然環境が豊かで美しいから	住環境がよいから	地域の人間関係がよいから	通勤や通学に便利だから	買い物や余暇活動に便利だから	子どもを育てていくための環境がよいから
全体		726	54.4	42.1	38.2	21.1	20.5	17.9	10.2	3.7
年齢	10歳代	29	62.1	55.2	51.7	13.8	24.1	20.7	6.9	0.0
	20歳代	42	69.0	66.7	35.7	11.9	2.4	33.3	9.5	4.8
	30歳代	88	64.8	47.7	33.0	22.7	15.9	31.8	10.2	5.7
	40歳代	140	55.0	41.4	34.3	15.7	22.1	20.0	7.9	7.9
	50歳代	214	56.5	38.3	39.3	24.3	17.3	15.4	7.5	0.9
	60歳代以上	207	44.0	37.2	41.5	23.2	28.5	10.1	15.5	3.4
性別	男性	349	54.4	45.3	36.4	20.6	20.9	17.2	8.0	4.3
	女性	360	55.0	39.2	39.2	21.7	19.7	19.2	12.2	3.3
居住地域	白石地区	243	52.3	42.8	30.0	25.5	13.6	22.2	12.8	5.8
	越河地区	57	52.6	49.1	40.4	15.8	24.6	14.0	8.8	0.0
	齋川地区	32	53.1	21.9	40.6	21.9	12.5	12.5	3.1	3.1
	大平地区	81	63.0	35.8	28.4	14.8	19.8	24.7	18.5	1.2
	大鷹沢地区	85	54.1	51.8	50.6	17.6	28.2	11.8	7.1	3.5
	白川地区	63	52.4	27.0	49.2	25.4	27.0	19.0	4.8	4.8
	福岡地区	77	54.5	50.6	45.5	20.8	18.2	19.5	13.0	1.3
	深谷地区	40	70.0	35.0	27.5	20.0	37.5	12.5	5.0	0.0
	小原地区	40	47.5	52.5	60.0	15.0	27.5	2.5	2.5	10.0
		合計	医療・福祉サービスが充実しているから	スポーツ・レクリエーション・文化施設が充実しているから	働く場が充実しているから	教育環境が充実しているから	その他	特に理由はない	無回答	
全体		726	3.2	3.0	1.2	0.7	12.1	4.0	0.0	
年齢	10歳代	29	10.3	10.3	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	
	20歳代	42	2.4	0.0	0.0	2.4	4.8	0.0	0.0	
	30歳代	88	0.0	3.4	1.1	0.0	11.4	2.3	0.0	
	40歳代	140	3.6	1.4	1.4	1.4	9.3	5.7	0.0	
	50歳代	214	1.4	2.8	0.9	0.0	15.0	2.8	0.0	
	60歳代以上	207	4.3	3.9	1.9	1.0	15.0	5.3	0.0	
性別	男性	349	3.2	3.7	0.9	1.1	12.6	4.3	0.0	
	女性	360	2.8	2.5	1.7	0.3	11.7	3.3	0.0	
居住地域	白石地区	243	4.9	2.1	2.1	0.4	11.1	5.3	0.0	
	越河地区	57	1.8	3.5	1.8	0.0	14.0	3.5	0.0	
	齋川地区	32	0.0	0.0	0.0	0.0	15.6	9.4	0.0	
	大平地区	81	2.5	4.9	2.5	0.0	12.3	3.7	0.0	
	大鷹沢地区	85	3.5	5.9	0.0	1.2	11.8	1.2	0.0	
	白川地区	63	0.0	3.2	0.0	0.0	14.3	1.6	0.0	
	福岡地区	77	3.9	1.3	0.0	0.0	13.0	1.3	0.0	
	深谷地区	40	0.0	0.0	0.0	0.0	7.5	5.0	0.0	
	小原地区	40	2.5	7.5	2.5	7.5	10.0	5.0	0.0	

問 6-2 問6で「4. どちらかといえば住み続けたくない」、「5. 住み続けたくない」、「6. 市内の別の場所に転居したい」に回答された方にお聞きします。
その理由は何ですか。(あてはまる番号3つまでに○をつけてください。)

『住み続けたくない』と回答した人にその理由をうかがったところ、「買い物や余暇活動に不便だから」が47.4%で最も高く、次いで「医療・福祉サービスが充実していないから」(47.0%)、「働く場が充実していないから」(45.5%)と続いています。

年齢別にみると、特に10歳代で「買い物や余暇活動に不便だから」の割合が高くなっています。60歳以上では「医療・福祉サービスが充実していないから」が6割以上で最も高くなっています。

地区別にみると、特に小原地区で「買い物や余暇活動に不便だから」の割合が高いほか、「自然環境が厳しいから」の割合も他の地区に比べて高くなっています。また、深谷地区、福岡地区では「子どもを育てていくための環境がよくないから」が4割以上と他の地区と比べて高くなっています。



		合計	買い物や余暇活動に不便だから	医療・福祉サービスが充実していないから	働く場が充実していないから	通勤や通学に不便だから	住環境がよくないから	子どもを育てていくための環境がよくないから	まちに愛着がないから	地域の人間関係がよくないから
全体		266	47.4	47.0	45.5	38.0	24.1	21.8	18.8	11.7
年齢	10歳代	17	64.7	11.8	47.1	58.8	29.4	0.0	29.4	0.0
	20歳代	36	44.4	38.9	55.6	41.7	25.0	25.0	19.4	5.6
	30歳代	48	35.4	39.6	39.6	43.8	22.9	39.6	18.8	12.5
	40歳代	36	44.4	47.2	55.6	38.9	36.1	19.4	25.0	16.7
	50歳代	79	53.2	53.2	45.6	39.2	13.9	21.5	12.7	11.4
	60歳代以上	49	46.9	61.2	36.7	18.4	30.6	10.2	20.4	16.3
性別	男性	99	44.4	41.4	40.4	33.3	24.2	20.2	21.2	12.1
	女性	158	49.4	50.0	48.7	41.8	25.3	22.8	17.1	10.1
居住地域	白石地区	80	43.8	61.3	51.3	35.0	18.8	18.8	18.8	10.0
	越河地区	18	55.6	55.6	50.0	50.0	33.3	27.8	33.3	16.7
	齋川地区	13	38.5	53.8	61.5	46.2	0.0	23.1	15.4	7.7
	大平地区	26	42.3	42.3	57.7	26.9	19.2	15.4	23.1	3.8
	大鷹沢地区	40	42.5	27.5	32.5	32.5	37.5	15.0	25.0	20.0
	白川地区	29	55.2	27.6	34.5	51.7	34.5	24.1	6.9	6.9
	福岡地区	19	31.6	36.8	31.6	26.3	36.8	42.1	26.3	15.8
	深谷地区	13	53.8	53.8	46.2	23.1	15.4	46.2	15.4	15.4
小原地区	23	60.9	47.8	47.8	52.2	13.0	8.7	4.3	4.3	
		合計	よくないから	スポーツ・文化施設が充実していないから	自然環境が厳しいから	両親や親戚が遠くに住んでいるから	その他	特に理由はない	無回答	
全体		266	10.9	10.9	10.5	6.8	16.9	0.0	0.8	
年齢	10歳代	17	17.6	23.5	17.6	0.0	11.8	0.0	0.0	
	20歳代	36	8.3	16.7	0.0	8.3	11.1	0.0	5.6	
	30歳代	48	12.5	16.7	4.2	4.2	25.0	0.0	0.0	
	40歳代	36	11.1	5.6	5.6	11.1	16.7	0.0	0.0	
	50歳代	79	8.9	10.1	16.5	6.3	15.2	0.0	0.0	
	60歳代以上	49	10.2	2.0	16.3	8.2	16.3	0.0	0.0	
性別	男性	99	12.1	11.1	11.1	5.1	17.2	0.0	1.0	
	女性	158	10.1	10.8	10.8	7.0	14.6	0.0	0.6	
居住地域	白石地区	80	11.3	18.8	6.3	12.5	18.8	0.0	1.3	
	越河地区	18	5.6	5.6	11.1	0.0	22.2	0.0	0.0	
	齋川地区	13	30.8	7.7	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	
	大平地区	26	11.5	7.7	7.7	15.4	3.8	0.0	0.0	
	大鷹沢地区	40	7.5	7.5	17.5	2.5	22.5	0.0	2.5	
	白川地区	29	6.9	6.9	0.0	0.0	20.7	0.0	0.0	
	福岡地区	19	21.1	10.5	5.3	10.5	21.1	0.0	0.0	
	深谷地区	13	0.0	0.0	15.4	7.7	7.7	0.0	0.0	
小原地区	23	4.3	8.7	34.8	0.0	13.0	0.0	0.0		

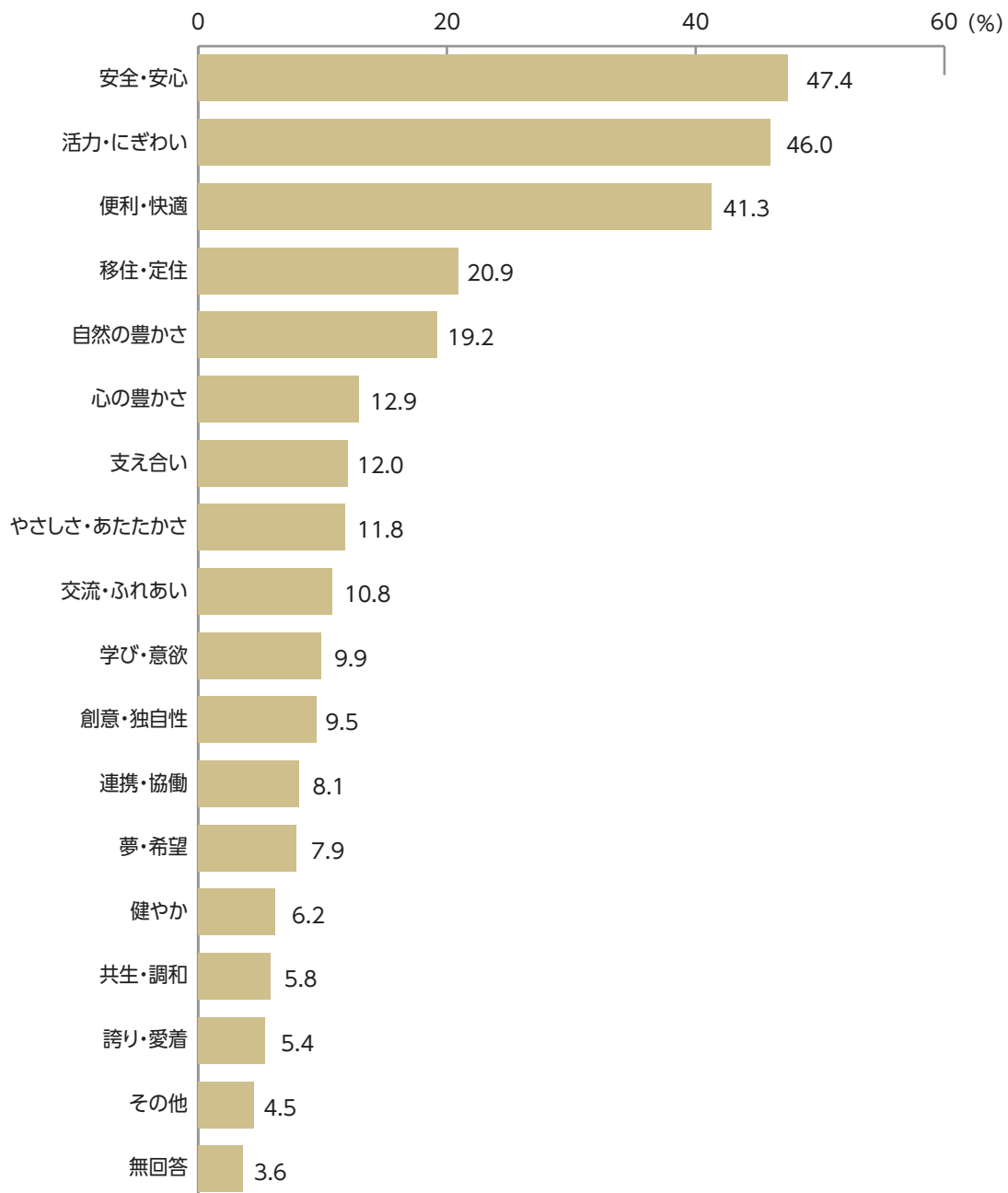
7

これからのまちづくりのキーワード

問7 これからの白石市のまちづくりを進めていくうえで、キーワードとなるのはどのような言葉だと思いますか。(あてはまる番号3つまでに○をつけてください。)

これからのまちづくりのキーワードについて、「安全・安心」が47.4%で最も高く、次いで「活力・にぎわい」(45.0%)、「便利・快適」(41.3%)と続いています。

年齢別にみると、40歳代以下では「活力・にぎわい」の割合が最も高く、特に10歳代で約6割と高くなっています。



		合計	安全・安心	活力・にぎわい	便利・快適	移住・定住	自然の豊かさ	心の豊かさ	支え合い	やさしさ・あたたかさ	交流・ふれあい
全体		1,386	47.4	46.0	41.3	20.9	19.2	12.9	12.0	11.8	10.8
年齢	10歳代	67	40.3	59.7	47.8	20.9	20.9	4.5	6.0	7.5	13.4
	20歳代	126	41.3	50.8	48.4	27.0	19.8	9.5	7.1	8.7	11.1
	30歳代	191	41.4	49.7	40.3	29.8	14.1	10.5	16.2	14.7	11.5
	40歳代	241	44.8	45.2	41.9	22.4	16.2	11.2	10.8	11.6	10.0
	50歳代	412	51.5	42.2	44.7	18.7	18.7	14.3	10.4	10.0	9.0
	60歳代以上	338	51.2	44.4	34.3	15.7	24.6	16.9	15.7	13.6	13.0
性別	男性	618	44.0	45.1	37.1	24.1	18.9	14.7	11.7	13.3	10.2
	女性	734	50.5	46.7	45.2	18.5	18.7	11.7	12.0	9.5	11.0
居住地域	白石地区	446	48.7	49.3	39.2	20.9	18.2	13.9	10.5	11.9	10.5
	越河地区	107	50.5	33.6	41.1	18.7	27.1	12.1	12.1	15.0	12.1
	齋川地区	72	45.8	44.4	40.3	23.6	25.0	6.9	8.3	9.7	8.3
	大平地区	142	45.1	52.1	46.5	18.3	14.1	13.4	10.6	14.8	9.9
	大鷹沢地区	173	48.6	49.1	41.6	17.3	13.9	11.6	13.3	13.9	9.8
	白川地区	126	43.7	40.5	41.3	27.8	19.8	14.3	15.9	7.1	14.3
	福岡地区	134	47.8	48.5	39.6	24.6	19.4	11.2	14.9	11.9	11.2
	深谷地区	75	46.7	44.0	42.7	18.7	21.3	12.0	12.0	4.0	14.7
小原地区	90	45.6	37.8	45.6	21.1	26.7	14.4	14.4	10.0	10.0	
		合計	学び・意欲	創意・独自性	連携・協働	夢・希望	健やか	共生・調和	誇り・愛着	その他	無回答
全体		1,386	9.9	9.5	8.1	7.9	6.2	5.8	5.4	4.5	3.6
年齢	10歳代	67	17.9	20.9	1.5	9.0	1.5	6.0	6.0	1.5	1.5
	20歳代	126	11.9	5.6	10.3	8.7	4.8	7.1	7.1	6.3	0.8
	30歳代	191	12.6	8.9	8.9	4.7	6.8	1.0	8.9	5.8	4.7
	40歳代	241	13.7	10.4	10.0	10.4	4.6	7.1	5.8	5.0	4.6
	50歳代	412	8.0	9.0	6.6	7.8	7.5	7.0	3.4	4.6	4.1
	60歳代以上	338	5.9	9.2	8.3	7.7	7.1	5.9	5.0	3.6	2.7
性別	男性	618	10.0	11.7	7.8	10.2	5.7	7.4	6.6	5.7	4.0
	女性	734	10.1	7.8	8.3	6.0	6.5	4.4	4.4	3.7	3.1
居住地域	白石地区	446	10.5	9.4	9.2	8.3	8.1	5.2	4.7	4.3	3.6
	越河地区	107	8.4	6.5	8.4	8.4	5.6	4.7	6.5	11.2	3.7
	齋川地区	72	15.3	8.3	6.9	4.2	5.6	11.1	5.6	11.1	0.0
	大平地区	142	14.8	13.4	3.5	6.3	7.0	5.6	7.7	2.1	4.9
	大鷹沢地区	173	9.2	8.1	7.5	12.7	5.8	6.4	6.4	5.8	2.9
	白川地区	126	8.7	14.3	6.3	7.1	2.4	4.0	4.8	3.2	2.4
	福岡地区	134	9.0	9.7	10.4	7.5	6.7	3.7	5.2	3.7	3.0
	深谷地区	75	6.7	8.0	12.0	6.7	0.0	12.0	2.7	1.3	1.3
小原地区	90	5.6	6.7	6.7	4.4	6.7	4.4	6.7	1.1	7.8	

用語解説

アルファベット

【AI】

Artificial Intelligence の略で、人工知能を表す。認識や推論など人間が持つ能力をコンピュータでも可能にする技術。

【DMO (観光地域づくり法人)】

Destination Management Organization の略で、多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人。

【ICT】

Information and Communication Technology の略で、情報通信技術を表す。IT(情報技術)に「コミュニケーション」が加わることで、ネットワーク通信による情報・知識の共有が念頭に置かれた表現。

【IoT】

Internet of Things の略で、モノのインターネットと呼ばれる。日常生活や経済活動の中にあるあらゆる「モノ」がインターネットでつながり、遠隔で操作・制御したり、データを収集してビッグデータとして活用したりできる仕組み。

【LGBT (性的マイノリティ)】

レズ・ゲイ(同性愛者)、バイセクシャル(両性愛者)、トランスジェンダー(性同一性障害など)の頭文字をとった単語で、性的少数者の総称のひとつ。

【NPO】

Non Profit Organization の略で、営利を目的とせず、公益のために活動する民間団体の総称。民間非営利団体。

【PDCA サイクル】

計画の立案から評価に至るまでの過程として、Plan(立案・計画)、Do(実施)、Check(検証・評価)、Action(改善)のサイクルを表したもので、事業を実施した結果を成果の視点で評価し、次の改善に結びつけようとする考え方。

【RPA】

Robotic Process Automation の略で、ロボット(ソフトウェア)を使って人間が行っていた業務を代行・自動化するもの。

【SDGs】

Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略で、平成27(2015)年9月の国連サミットにて全会一致で採択された。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のための令和12(2030)年を年限とする17の国際目標。詳細は7ページ参照。

【Society5.0】

狩猟社会(Society1.0)、農耕社会(Society2.0)、工業社会(Society3.0)、情報社会(Society4.0)に続く新たな社会を指す。IoT、AI、ビッグデータなど、先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、経済発展と社会的課題の解決を両立していく社会の実現を目指している。

【SNS】

Social Networking Service (Site) の略で、登録された利用者同士が交流できる Web サイトの会員制サービスのこと。

あ行

【生きる力】

変化の激しい社会を生きるために必要な「確かな学力」、「豊かな人間性」、「健康・体力」を指す。学習指導要領では、この知・徳・体をバランスよく育てることが「生きる力」になっている。

【インバウンド】

訪日外国人旅行または訪日旅行者。

【インフルエンサー】

他に影響力のある人やもののこと。特に SNS を通して発信することにより多くの人の消費行動などに大きな影響を与える人を指す。

か行

【介護予防】

介護が必要な状態になることをできる限り防ぎ、または遅らせること。また、介護が必要な状態であっても、現在の状態がこれ以上悪化しないようにすること。

【合併浄化槽】

し尿及び生活雑排水を各戸で処理するもの。し尿のみを処理する単独浄化槽に比べて河川などの公共用水域の水質悪化を軽減する効果がある。

【家庭教育支援チーム】

地域の子育て経験者や民生委員・児童委員など身近な人たちがチームを組織し、孤立しがちな保護者や仕事で忙しい保護者など、地域とのコミュニケーションや学習機会などをなかなか得ることのできない保護者や家庭に対して支援する取り組み。

【通いの場】

介護予防を目的として、体操や趣味の活動など、住民が主体となって運営する身近な活動の場のこと。

【関係人口】

定住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域住民と多様に関わる人々、地域にかかわってくれる人々のこと。

【経常収支比率】

経常的な収入（地方税、地方交付税など毎年継続的に収入が見込まれるお金）に占める経常的な支出（人件費や借金の返済など毎年継続的に支出が見込まれるお金）の割合のこと。比率が高いほど財政構造の硬直化が進んでいることを表す。

【ゲートキーパー】

自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応（悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る）を営むことができる人のことで、いわば「命の門番」とも位置付けられる人。

【健康寿命】

介護を受けたり寝たきりになったりせず日常生活を送れる期間。

【耕作放棄地】

以前耕作していた土地で、過去 1 年以上作物を作付け（栽培）せず、この数年の間に再び作付け（栽培）する意思のない土地。

【高度電子機械産業】

情報通信機械器具製造業など電子部品・電子機械にとどまらない最先端の研究によって生み出された高度な技術を内包する電子部品・電気機械関連産業。

【合理的配慮】

教育や就業、地域生活に平等に参加できるように、それぞれの障害特性や困りごとに合わせて行われる配慮のこと。障がいのある人から求められた場合、行政・学校・企業などの事業者は過度な負担にならない範囲で提供することが求められている。

【交流人口】

通勤・通学や買い物、観光などでその地域を訪れる人のこと。「定住人口」に対する概念。

【国際理解教育】

国際社会で主体的に活躍できる人材を育成するために、歴史や文化、伝統などに対する理解を深め、これらを愛する心を育成する教育だけでなく、広い視野を持って異文化を理解し、異なる習慣や文化を持った人々と共に生きていくための資質や能力を育む教育のこと。

さ行

【財政力指数】

基準財政収入額（標準的な状態で見込まれる地方税収入）を基準財政需要額（合理的で妥当な水準の行政を行った場合の必要額）で除したもので、高いほど財政力が高いことを示す。この数値が 1 未満の場合に地方交付税が交付される。

【サマーレビュー】

新年度の予算編成に向けて、夏に事業の見直しや予算の洗い直しを行うこと。

【事業継続計画（BCP）】

Business Continuity Plan の略で、自然災害などに遭遇した場合、人・物・情報など、利用できる資源に制約がある状況下において、優先的に実施すべき業務を特定するとともに、業務の執行体制や対応手順、継続に必要な資源の確保などをあらかじめ定める計画のこと。

【自主防災組織】

地域住民による任意の防災組織。主に町内会、自治会が母体となって地域住民が主体的に連帯して防災活動を行う。

【実質公債費比率】

地方公共団体の財政規模に対し、借入金の返済額（公債費）が占める割合。財政の早期健全化や再生の必要性を判断するための財政指標のひとつ。

【シビックプライド】

「シビック（市民の、都市の）」と「プライド（誇り）」を合わせた言葉で、まちに対する市民の誇りを指す。郷土を愛する気持ちだけではなく、まちを構成する一員、まちづくりを進める主体としての自負心などを指す。

【集落支援員】

集落への「目配り」として、集落の状況把握や集落点検の実施、住民と住民、住民と市町村の間で話し合いの促進などを行う人。地方自治体が委嘱する。

【食生活改善推進員】

「私達の健康は私達の手で」をスローガンに、食を通じた健康づくり活動を行う人。市町村が行う食生活改善推進員の養成事業の修了後、食生活改善推進員協議会の会員となって活動する。

【白石三白野菜】

白石市の特産品であった白石三白（温麺、和紙、葛）のブランドを生かすための取り組みとして、市内の生産者・直売所が生産する、白いトウモロコシ（ピュアホワイト）、白いカボチャ（夢味（ゆめみ））、里芋（土（ど）垂（だれ））などの白い野菜のこと。

【森林環境譲与税】

国から市町村及び都道府県に譲与される税であり、森林整備及びその促進に関する施策などに用いることとされている。

【循環型社会】

廃棄物の発生を抑制し、再利用・リサイクルを行い、廃棄量を少なくし資源として循環することで、環境負荷ができる限り低減される社会のこと。

【生涯スポーツ】

生涯を通じて健康の保持・増進やレクリエーションを目的にし、「だれもが、いつでも、どこでも気軽に参加できる」スポーツのこと。

【スクールカウンセラー】

児童・生徒の生活上の問題や悩みに対する相談・カウンセリング、保護者・教職員への助言・援助を行う目的で学校に配置される臨床心理士などの資格を持った専門家。

【スクールソーシャルワーカー】

児童・生徒が学校や日常生活で直面する苦しみや悩みについて、児童・生徒の社会環境を構成する家族や友人、学校、地域に働きかけ、福祉的なアプローチによって解決を支援する精神保健福祉士や社会福祉士などの資格をもった専門家。

【生活困窮者】

経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある人。

【成年後見制度】

判断力が衰えたり、認知症高齢者・知的障害者など自分自身の権利を守ることが十分でなかったりする人の財産管理や身上監護を支援する制度のこと。

用語解説

【創業塾】

創業を希望する方を対象としたセミナー。

【総合型地域スポーツクラブ】

幅広い世代の人々が興味・レベルに併せて、様々なスポーツにふれる機会を提供する、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブのこと。

た行

【第2層生活支援コーディネーター】

高齢者の生活支援体制整備を推進するため、地域において、生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築に向けたコーディネート機能を果たす人のこと。

【多機能型自治】

おおむね小学校区域において、目的型組織や地縁型組織などのあらゆる団体が結集して地域課題を自ら解決し、地域運営を行う仕組み。

【地域共生社会】

制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会のこと。

【地区計画】

各地区のまちづくり宣言を実現するために、地域住民自らが地域課題や地域の将来像、主な取り組みなどを明らかにするために、地区ごとに策定する計画。

【地方債現在高比率】

歳入一般財源に対する地方債現在高の割合のこと。

【地方創生】

少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度な集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある社会を維持していくための取り組み。

【中間支援組織】

行政と地域の間になんらかの様々な活動を支援する組織のこと。

【超スマート社会】

必要なもの・サービスを必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供し、社会の様々なニーズにきめ細やかに対応でき、あらゆる人が質の高いサービスを受けられ、年齢、性別、地域、言語といった様々な違いを乗り越え、生き活きと快適に暮らすことのできる社会。

【特殊詐欺】

電話その他の方法で、対面することなく被害者をだまし、指定した預貯金口座へ現金を振り込ませるなどの方法により現金をだまし取る詐欺のこと。なりすまし（オレオレ）詐欺、架空請求詐欺などがある。

【特別支援教育】

障がいのある幼児・児童・生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立ち、幼児・児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもの。

な行

【認定農業者】

農業経営基盤強化促進法に基づく農業経営改善計画の市町村の認定を受けた農業経営者・農業生産法人のこと。

は行

【ハザードマップ】

自然災害を予測し、その発生地点、被害の拡大範囲及び被害程度、さらには避難経路、避難場所などの情報を地図上に示したもの。

【ビックデータ】

情報通信技術（ICT）の進歩によってインターネット上で収集、分析できるようになった膨大なデータのこと。産業・学術行政・防災など、様々な分野で意思決定や将来予測、事象分析などに活用されている。

【人・農地プラン】

農業者が話し合いに基づき、地域農業における中心経営体、地域における農業の将来のあり方などを明確化し、市町村が公表する計画。

【避難行動要支援者】

高齢者、障がい者、乳幼児などの要配慮者のうち、災害発生時に自ら避難することが困難で、円滑かつ迅速な避難の確保を図るために特に支援を要する人のこと。

【ふるさと納税】

生まれ育ったふるさとや自分の意思で応援したい自治体など都道府県、市町村への寄附。自己負担額を除く全額が所得税及び住民税から控除される。

【放課後子ども教室コーディネーター】

学校や関係機関との連絡調整、人材確保、人員配置、活動プログラムの作成、保護者を含めた地域住民への参加の呼びかけなどを行う総合的な調整役のこと。

【防犯実動隊】

各種犯罪を予防し、明るく住みよい・安心して暮らすまちづくりを推進するため、警察や市などの防犯推進組織と連携を図り、自主的に活動する組織。

【保健事業推進員】

地域での健康づくり活動や市が実施する保健事業への協力を通して、地域における健康づくりの担い手として活動する人。

用語解説

ま行

【まちづくり協議会】

地域の身近な課題に対し、地域住民が一体となって主体的に解決に取り組む住民自治組織。地域で活動する団体や個々の住民から構成される。

【メタボリックシンドローム】

内臓脂肪症候群のこと。内臓脂肪型肥満（内臓肥満・腹部肥満）に高血糖・高血圧・高脂血症のうち2つ以上を合併した状態。

【メンター制度】

所属する上司とは別に、年齢や職歴の近い先輩職員が、新入職員・若手職員をサポートする制度。

ら行

【ライフスタイル】

生活の様式・営み方。また、人生観・価値観・習慣などを含めた個人の生き方のこと。

【歴史遺産】

地域で形づくられてきた文化的所産のこと。文化財指定の有無や有形か無形かは問わず、歴史資料や建造物、遺跡、伝統芸能や技術・技能、風習、これまでの調査結果など地域の歴史・文化を理解するための内容を含むものを指す。